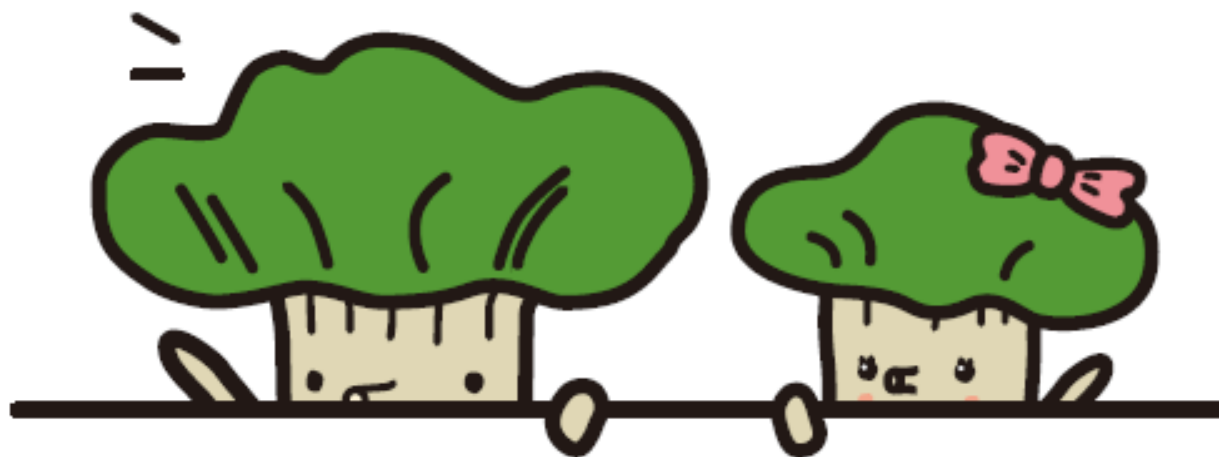


2025年3月期 決算

決算概況と今後の事業展開について



つなぐを化学する
荒川化学工業株式会社

2025.6.2

代表取締役社長執行役員 高木 信之 / 常務取締役執行役員 延廣 徹 / 取締役執行役員 富宅 伸幸

目次

- 1 決算概況と今期予想
- 2 セグメント別情報・経営指標
- 3 サステイナビリティへの取り組み

参考資料

1

決算概況と今期予想

為替レート	2024年度（実績）	2025年度（想定）
USD	152.24円	150.00円
EUR	164.36円	160.00円
RMB	21.12円	21.00円

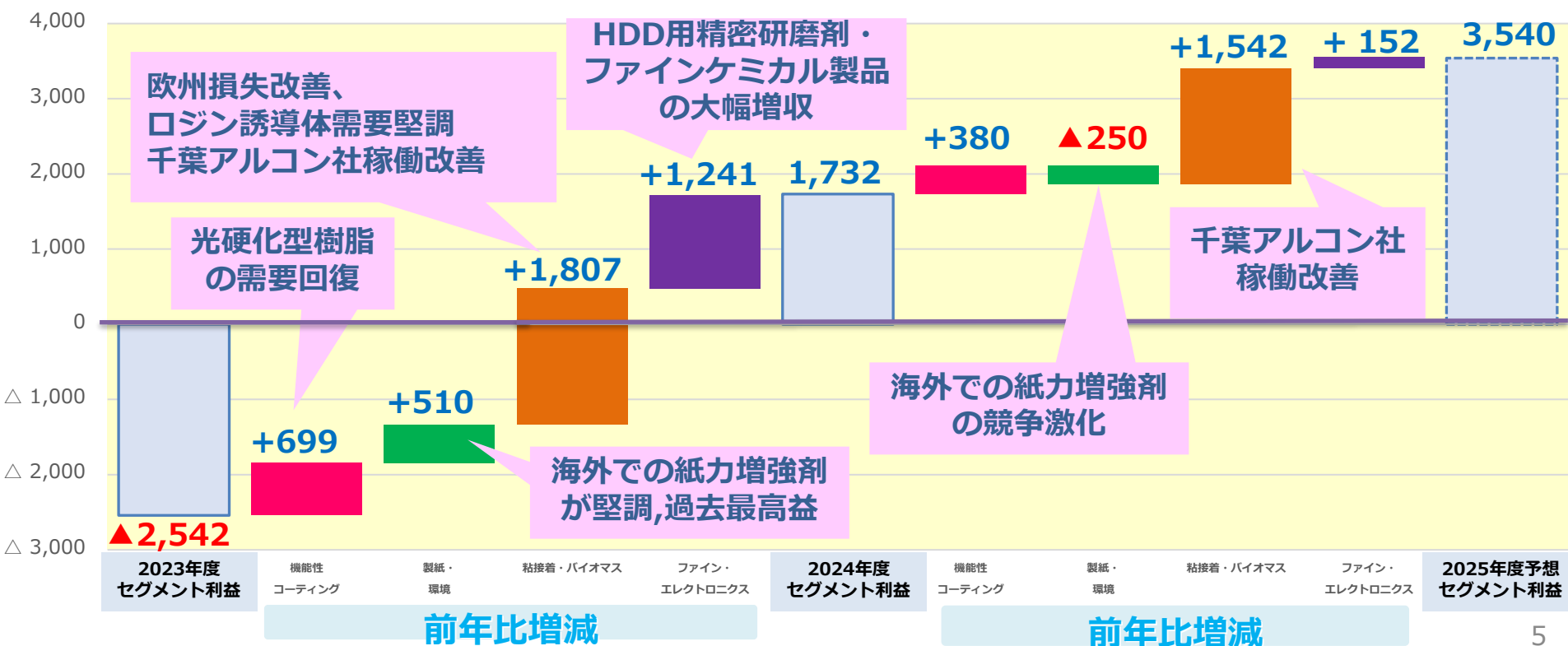
決算概況と今期予想

上段：百万円 下段：増減率	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度 (予想)
売上高	80,515 14.1%	79,431 △1.3%	72,222 △9.1%	80,236 11.1%	85,000 5.9%
営業利益	3,304	△2,907	△2,617	1,057	2,800
経常利益	3,566	△2,687	△2,412	854	2,400
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,502	△4,941	△1,042	2,644	1,800
EBITDA	6,500 1.2%	1,569 △75.9%	3,190 103.3%	6,778 112.4%	8,300 22.4%
ROE	2.6%	△8.7%	△1.9%	4.6%	3.0%
配当	48円	48円	48円	49円	50円

2024年度実績	・全セグメントにおいて増収増益、各利益項目で黒字転換 ・光硬化型樹脂・ハードディスク用精密研磨剤・ファインケミカル製品が大幅増収 ・海外において板紙向け紙力増強剤や粘着・接着剤用樹脂の販売が堅調
2025年度予想	・全セグメントにおいて増収を見込む ・製紙・環境事業は、減益の見込みながら、他のセグメントで増益を見込む ・EBITDAは過去最高水準を見込む

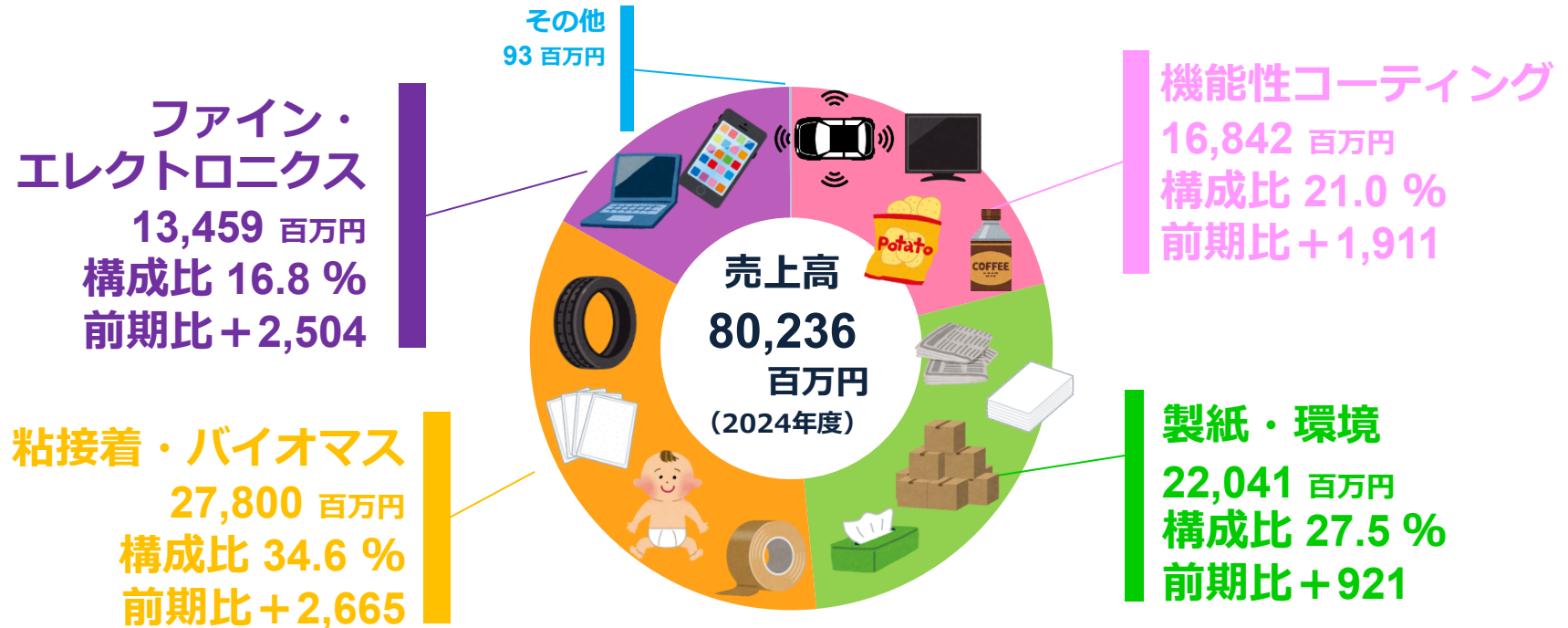
セグメント利益増減

連結セグメント利益	2023年度		2024年度		2025年度（予想）	
	百 万 円	増減（％）	百 万 円	増減（％）	百万円	増減（％）
機能性コーティング	520	55.2	1,219	134.2	1,600	31.3
製紙・環境	1,339	330.9	1,849	38.1	1,600	△13.5
粘接着・バイオマス	△ 4,048	—	△ 2,241	—	△ 700	—
ファイン・エレクトロニクス	△ 393	—	847	—	1,000	18.1
合計	△ 2,542	—	1,732	—	3,540	109.0



2 セグメント別情報・経営指標

セグメント別売上高



機能性コーティング	光硬化型樹脂、熱硬化型樹脂、印刷インキ用樹脂、塗料用樹脂 等
製紙・環境	紙力増強剤、サイズ剤、新規水系ポリマー 等
粘接着・バイオマス	水素化石油樹脂、粘着・接着剤用樹脂、超淡色ロジン、合成ゴム重合用乳化剤 等
ファイン・エレクトロニクス	精密部品洗浄剤および洗浄装置、低誘電ポリイミド樹脂、ファインケミカル製品、電子材料用配合製品、精密研磨剤 等

2024年度実績

■ 光硬化型樹脂はスマートフォンやディスプレイ関連分野での需要回復が進み、販売が増加

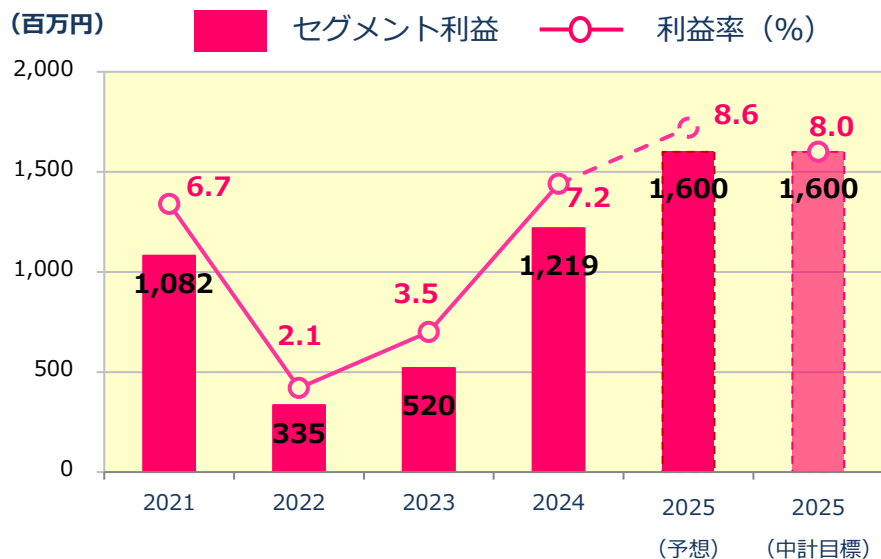
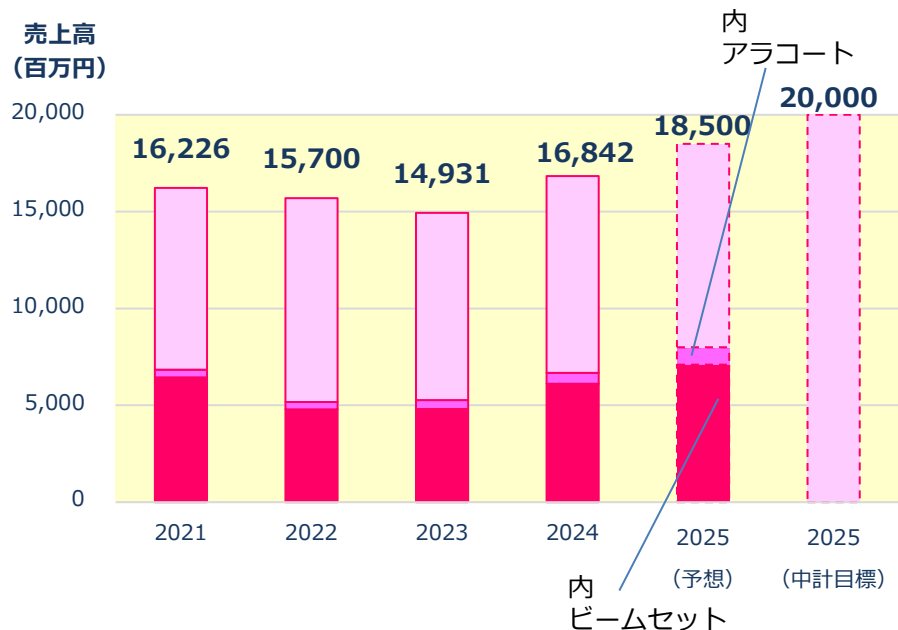
2025年度見通し

■ 主力製品である光硬化型樹脂の需要が堅調に推移する見込みであり、「そだてる」ミッションに位置付けている

熱硬化型樹脂の拡販も見込む

中長期的戦略

- 高機能製品群がさらなる収益ドライバー
- 強固な事業基盤構築による拡大・採算性の向上



光硬化型樹脂（ビームセット・オプスター）

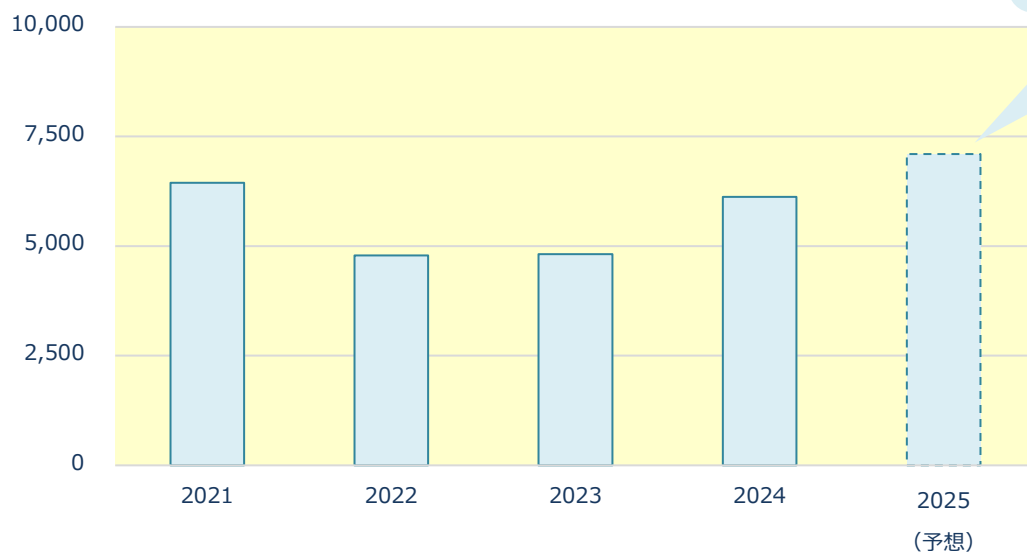


：サステナビリティ製品

- 光で瞬時に固まり、省エネルギー、環境負荷低減（VOC削減）
- 要求特性を実現する樹脂設計と配合技術力
- フィルムコーティングの高機能化に
- 生産能力増強：富士工場の新設備 顧客認証・下期量産化予定



売上高
(百万円)



増産体制確立で過去最高

■ ディスプレイ

■ 自動車関連

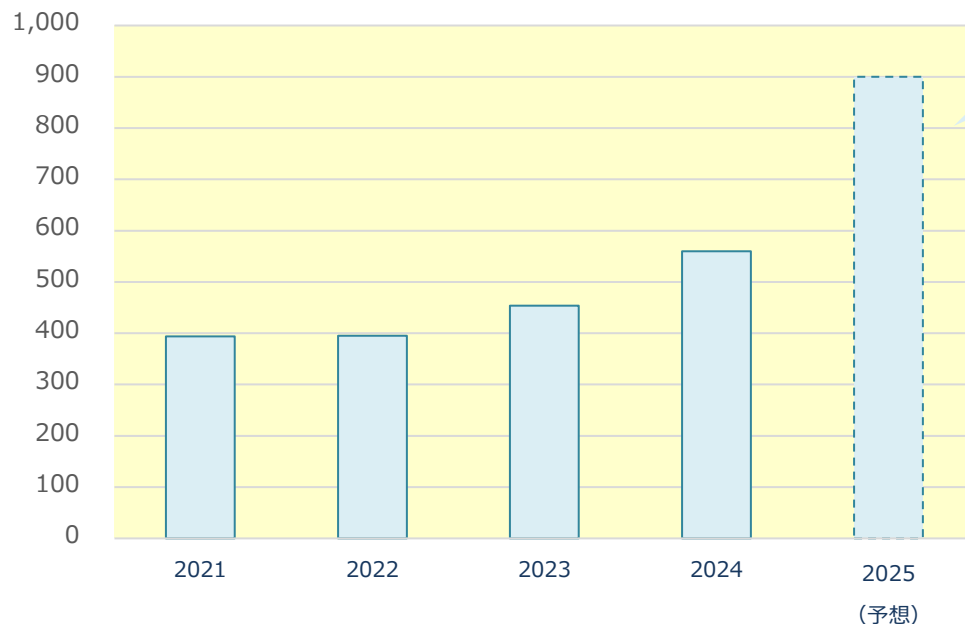


- IC生産工程用
- インデックスマッチング
- 印刷インキ・塗料
- クリアワニス

熱硬化型樹脂（アラコート）

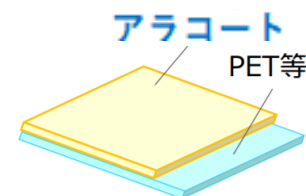
- 長年のインキ・塗料分野で培った**高分子合成技術、二液硬化技術、配合技術**を駆使して開発した**熱硬化型機能性コーティング剤**
- フィルムコーティングの**高機能化**に
- 「機能」を追求し、**多様化するニーズに適した「ソリューション」**を提案

売上高
(百万円)



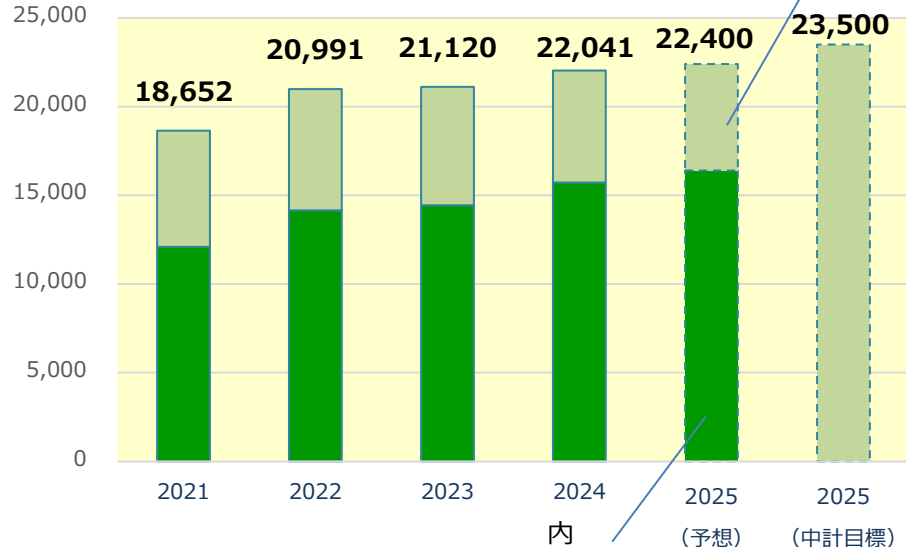
技術力を背景としたカスタマイズで
採用数の増加

(層構成例)

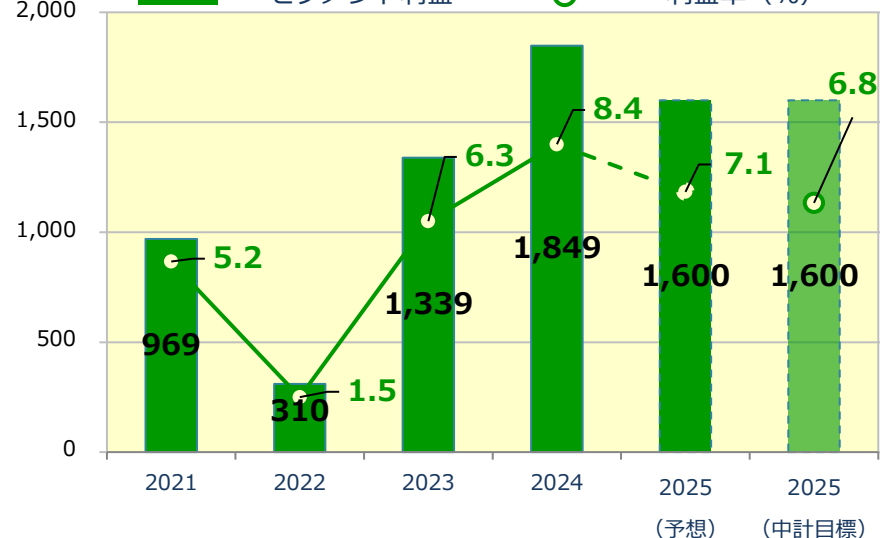


- 帯電防止コーティング剤
- 離型コーティング剤
- UVコーティング用アンカー剤
- 蒸着用アンカー剤
- 熱硬化型自己修復コーティング剤

売上高
(百万円)



(百万円)



2024年度実績

- 国内においては、市況の低迷が続いており、海外においては、競争環境が一層厳しさを増しているものの、**板紙向け紙力増強剤**が堅調に推移

2025年度見通し

- 海外での競争環境が一層厳しさを増すと予想しているものの、引き続き海外での紙力増強剤などの販売増加や国内での収益性改善に努める

中長期的戦略

- 国内：需要減に対応し、品種と生産拠点の統廃合による収益性改善
- 海外：リサイクル促進に対応した紙力増強剤の地域拡大

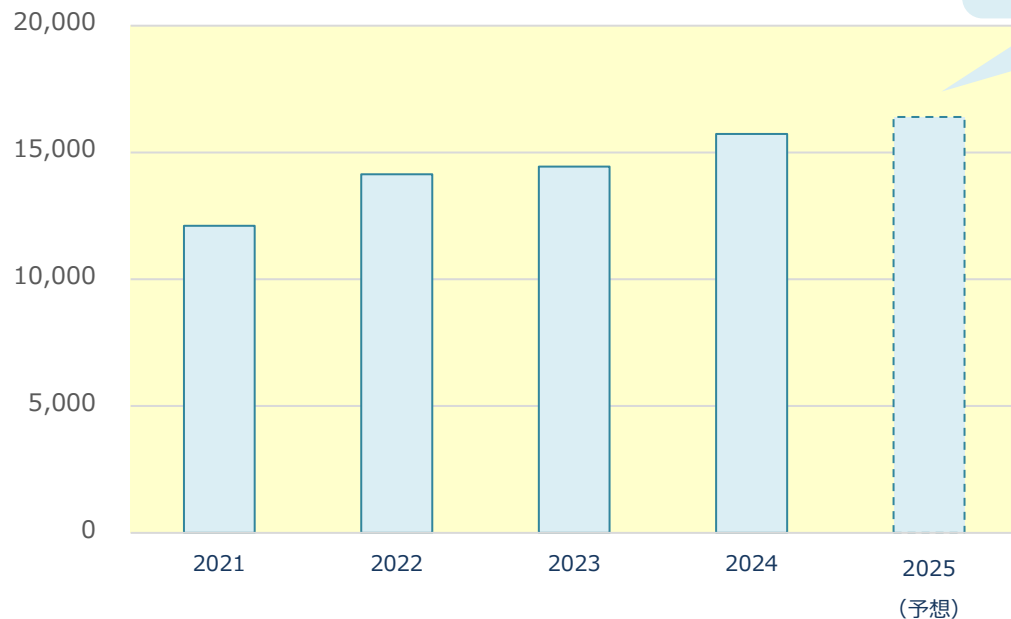
紙力増強剤（ポリストロン）



：サステナビリティ製品

- パルプ繊維同士をつなぎ、紙の力を向上させる
- ポリアクリルアミド（PAM）系紙力増強剤の拡大
⇒ 販売地域を中国・台湾からASEANに拡大し、**古紙リサイクル促進に貢献**
- 荒川ケミカルベトナム社が2022年3月に稼働し、生産・販売を開始
⇒ **ASEAN向けのさらなる拡販による成果の最大化を目指していく**

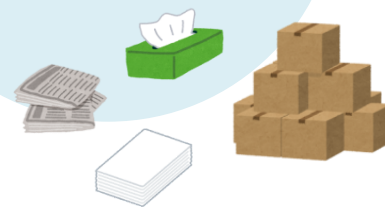
売上高
(百万円)



ASEAN地域での拡販が進む



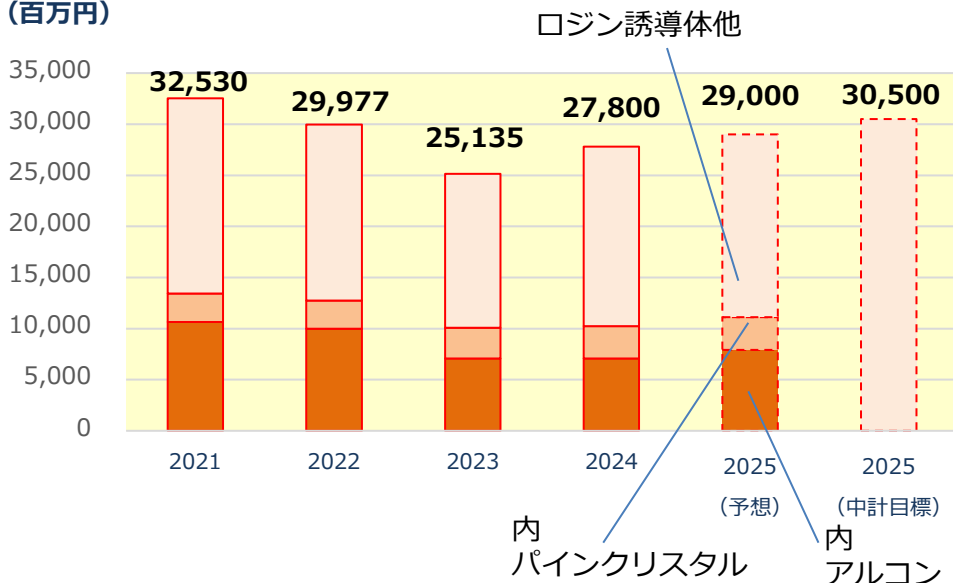
- 板紙向け紙力増強剤
⇒ 段ボールの薄型化に対応
- 上質紙・コート原紙等の洋紙
まで幅広い用途に使用



増収増益

粘接着・バイオマス事業

売上高
(百万円)



2024年度実績

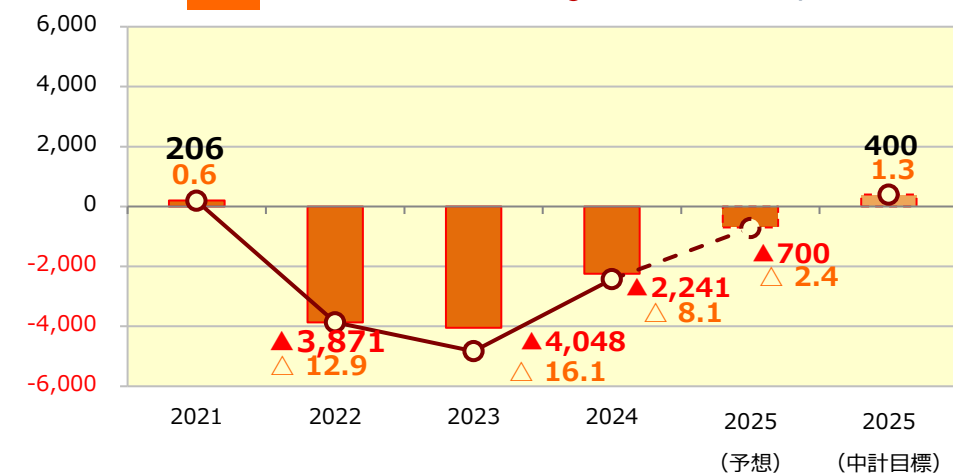
- 千葉アルコン製造株式会社の稼働率は改善傾向にあったが、想定より機器の不具合等や修繕費も増加し、水素化石油樹脂の収益を押し下げ
- ロジン系の粘着・接着剤用樹脂はアジア地域を中心に販売が堅調に推移

2025年度見通し

- 粘着・接着剤用樹脂の需要は、中国で需要回復する見込み
- 千葉アルコン製造での水素化石油樹脂の販売が寄与し、セグメント損失は大幅な赤字縮小を見込む

(百万円)

セグメント利益 利益率 (%)

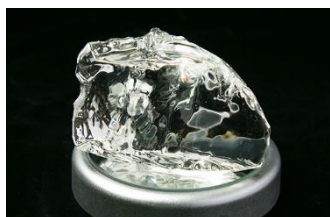


中長期的戦略

- アルコン：C9留分ベースの特徴と品揃えの多さを活かし、高付加価値用途での拡販を推進
- ロジン：「Global Pine Chemicals Partner」への深化、松脂資源と関連事業の持続性を確保

水素化石油樹脂（アルコン）

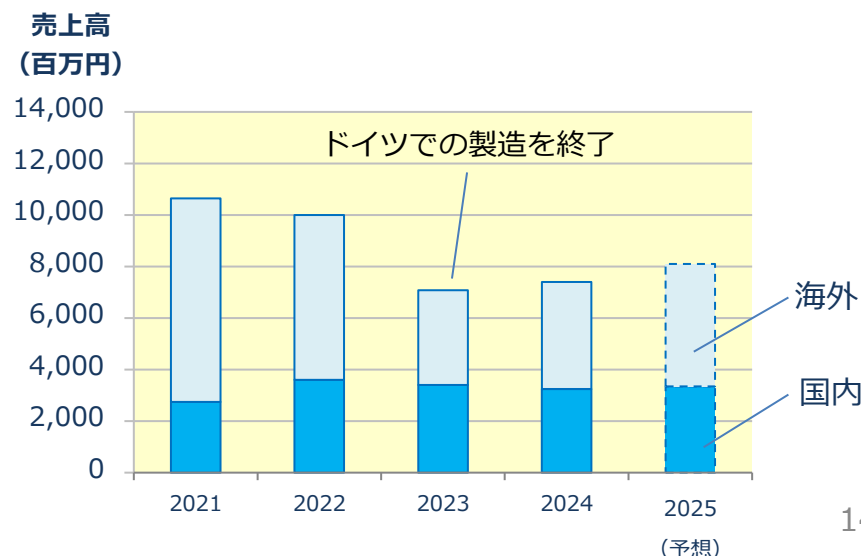
- グローバル需要は人口増加や経済成長に伴い今後も拡大が見込まれる
- 千葉アルコン社（コスモEHD、丸善石油化学との合併）は2024年3月から商用販売を開始
機器の不具合等が想定より多く、生産量・販売量ともに伸び悩む
稼働改善に注力中
- 中国でDCPD系樹脂の新增設が相次ぎ、汎用品は供給過剰。**アルコンの強みや豊富なラインナップで差別化。多様な用途にも展開し、水島工場と千葉アルコン社（生産能力計3.5万トン）の2拠点からグローバルに供給するシナリオを推進中**



▼水素化石油樹脂「アルコン」
無色無臭の白物樹脂として世界で初めて工業化に成功（1965年上市）

【千葉アルコン社の状況と取り組み】

- 重要な全社課題と認識し「アルコン特別委員会」を設置
＜販売面＞
高付加価値用途での拡販、グローバル販売戦略の再構築
＜生産面＞
稼働率の向上、石油化学コンビナート再編を見据えた取り組み
- 高圧工程もある連続プラントであり、定修毎に段階的ながら生産能力を活かせるように施策を進めている



ロジン誘導体（パインクリスタル・ロジンエステル等）



：サステナビリティ製品

■ロジンエステル：アジアで堅調

バイオマス素材として貢献、訴求していく

■パインクリスタル

琥珀色のロジンを高圧水素化技術により**ほぼ無色、不純物が少ない熱安定性がよい**製品

鉛フリーはんだ用フラックスの**業界標準**、**ライフサイエンス**分野にも展開

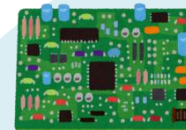
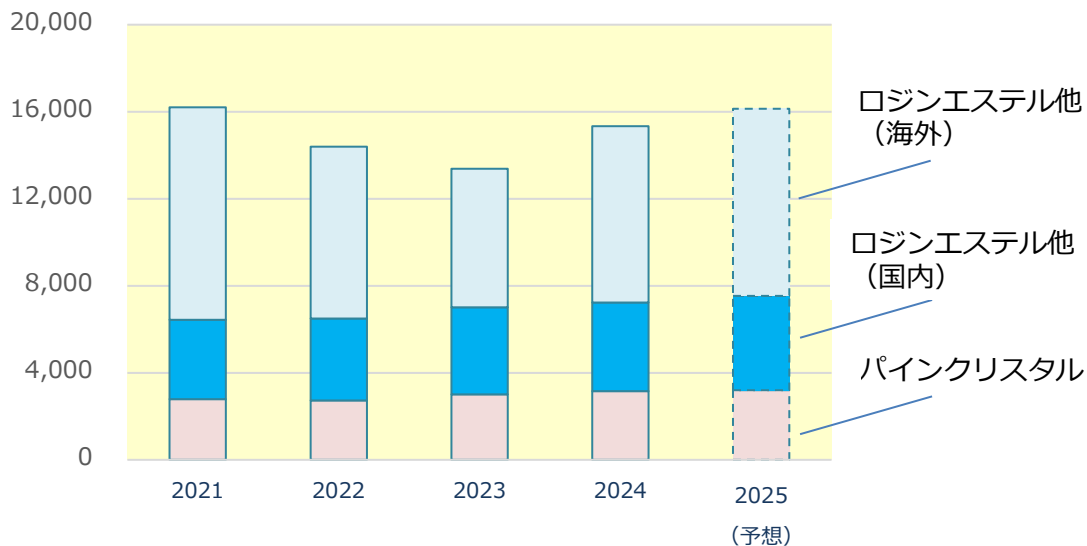
■樹脂エマルジョン

高い乳化技術による高品質な**業界で高いシェアを誇る**製品

低VOC製品環境負荷低減や高軟化点、高耐水性製品などラインナップ



売上高
(百万円)



■鉛フリーはんだ用
フラックス



■ 3Dプリンター関連部材
■ 光学フィルム関連部材



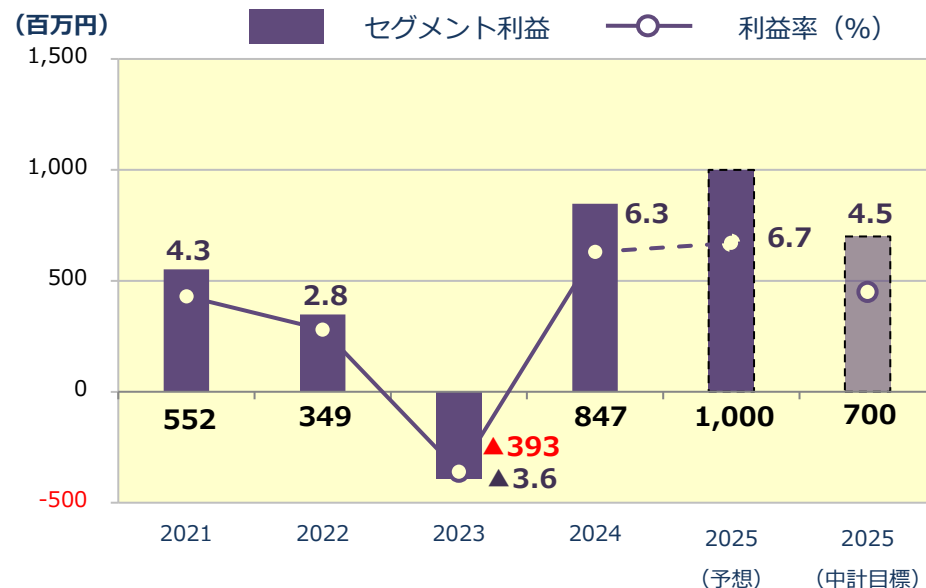
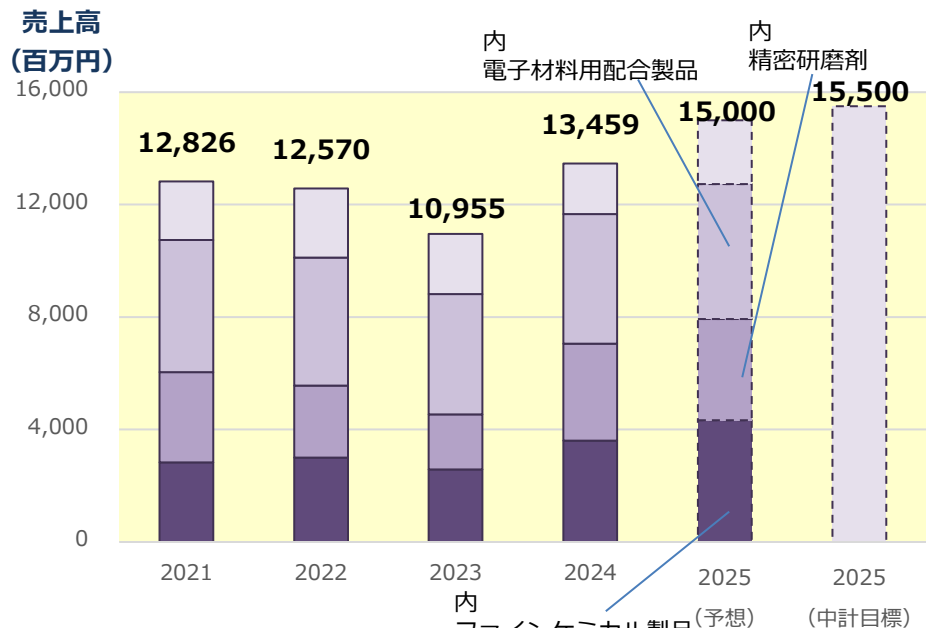
■ 食品ラベル、包装材料、
建材・自動車向けテープ用粘着剤



■ 医療用貼付剤

増収増益

ファイン・エレクトロニクス事業



2024年度実績

■ 電子部材などの需要回復や、生成AIの需要増加に伴うデータセンターへの積極的投資が進んでいる影響などにより、高圧化学工業の ファインケミカル製品 および山口精研工業の ハードディスク用精密研磨剤 が大幅な増収

2025年度見通し

■ 引き続き、ファインケミカル製品 および ハードディスク用精密研磨剤 の拡販を見込む

中長期的戦略

■ データセンターや半導体関連市場の将来の需要増加に素早く連携・対応し、事業のさらなる拡大

精密研磨剤 (Neopolish)

山口精研工業

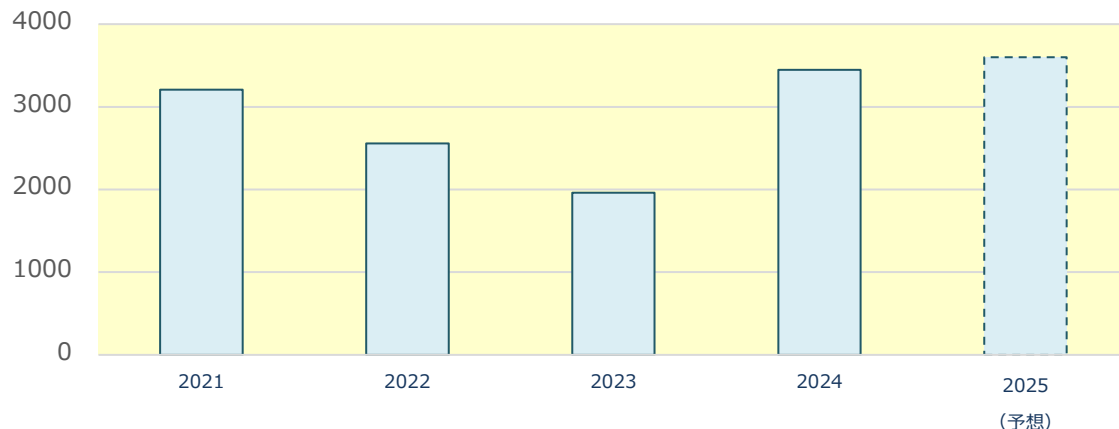
ノートPC等の市場はSSDが優勢も、大容量化が進むデータセンター市場はHDDの需要拡大。HDD基板は高容量のための薄型化、面品質の向上とコスト削減でアルミ基板とガラス基板がしのぎを削る。

- アルミ磁気ディスク用研磨剤を主体に各種金属などの鏡面研磨剤を扱う
- 各種基板に対応した研磨剤開発に注力
- 生産能力増強：第2工場での量産化 需要増加に備える

第2工場 外観



売上高
(百万円)



ファインケミカル製品



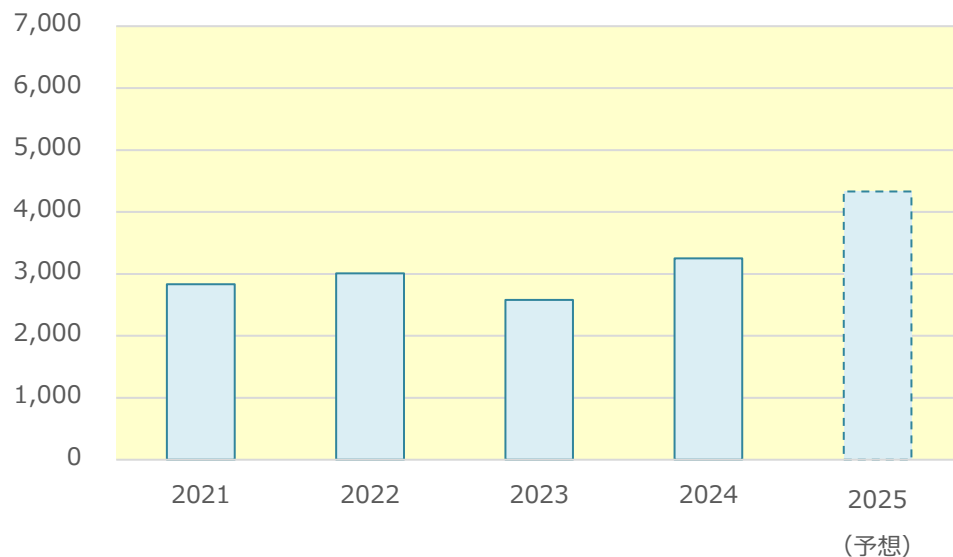
高圧化学工業



：一部サステナビリティ製品あり

- ファインケミカル製品(中間素材)を**高度な品質管理体制下**で受託製造
- 耐腐食性高圧反応設備（**ハステロイ製**）で高付加価値化
⇒アルカリから酸条件下の広範囲のpH域での使用に対応でき、通常の材質では腐食を伴う反応でも生産が可能に
- 水島工場に半導体関連材料の生産設備完工、顧客認証・量産化へ

売上高
(百万円)



- 電子材料用途
- 医薬品用途

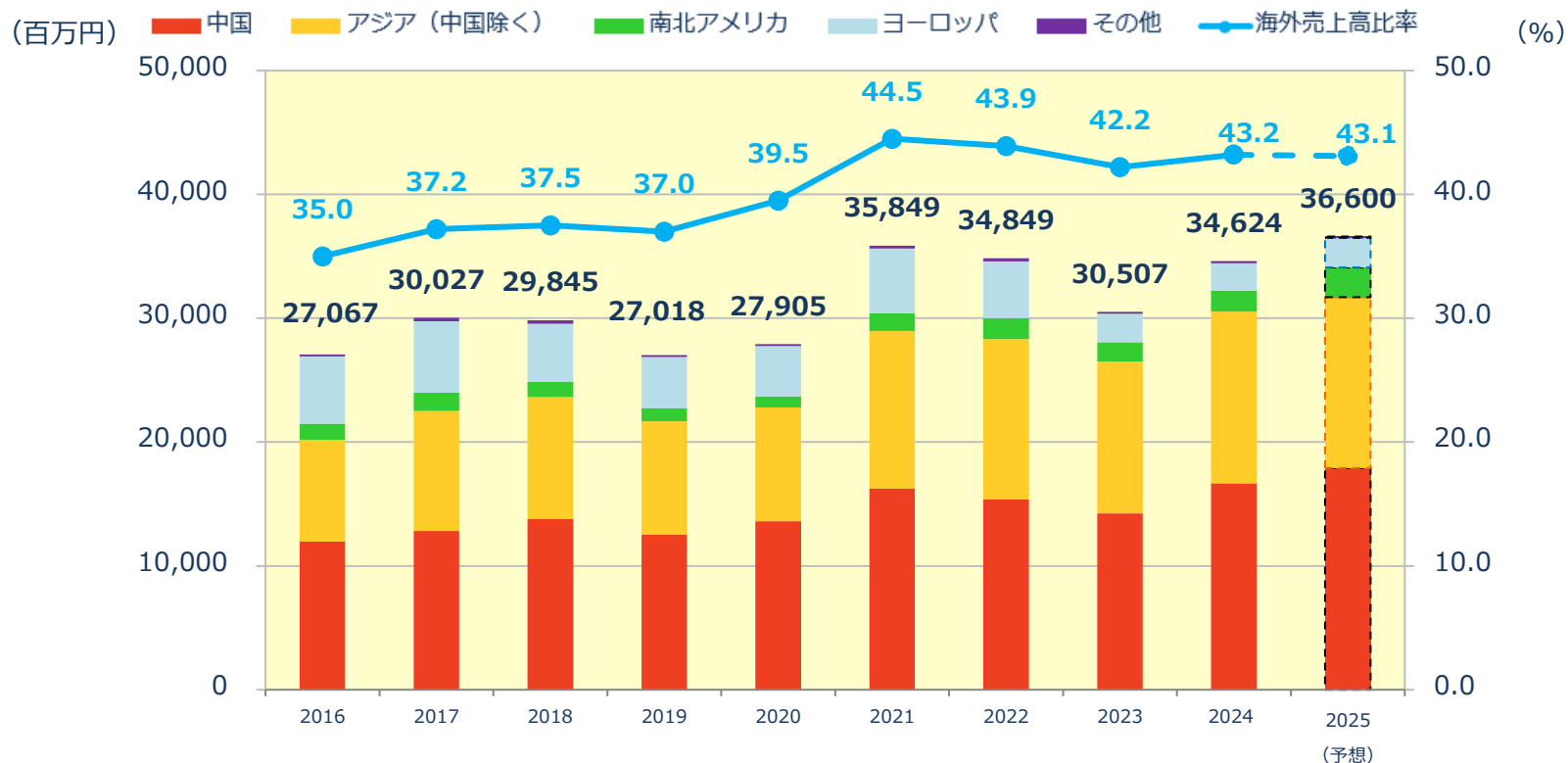
海外売上高・比率 推移

2024年度実績

- 紙力増強剤のアジア地域での販売拡大、中国での粘着・接着剤用樹脂の需要回復により、海外売上高比率は増加

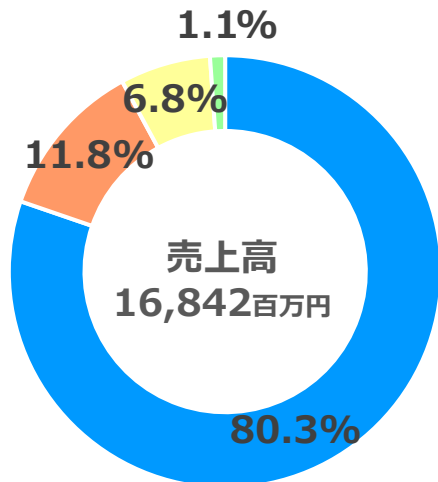
2025年度見通し

- 千葉アルコン製造の水素化石油樹脂の輸出や、中国での粘着・接着剤用樹脂の拡販が予想され、海外売上高は366億円で過去最高となる見込み

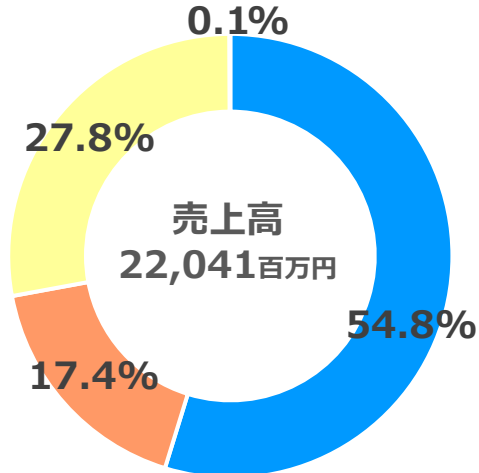


地域別・セグメント別売上高比率

機能性コーティング



製紙・環境



日本

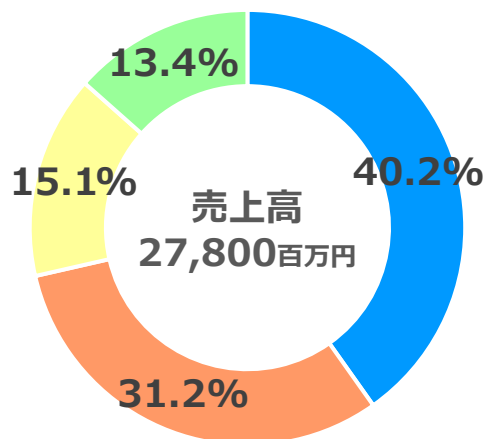
中国

アジア（中国除く）

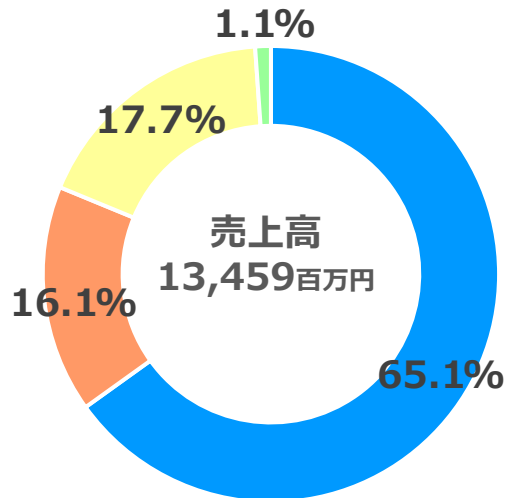
南北アメリカ・ヨーロッパ



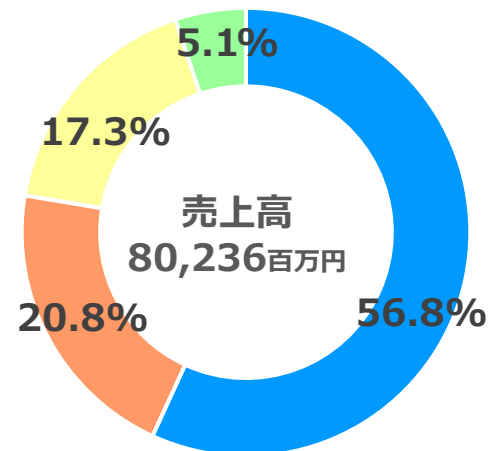
粘接着・バイオマス



ファイン・エレクトロニクス



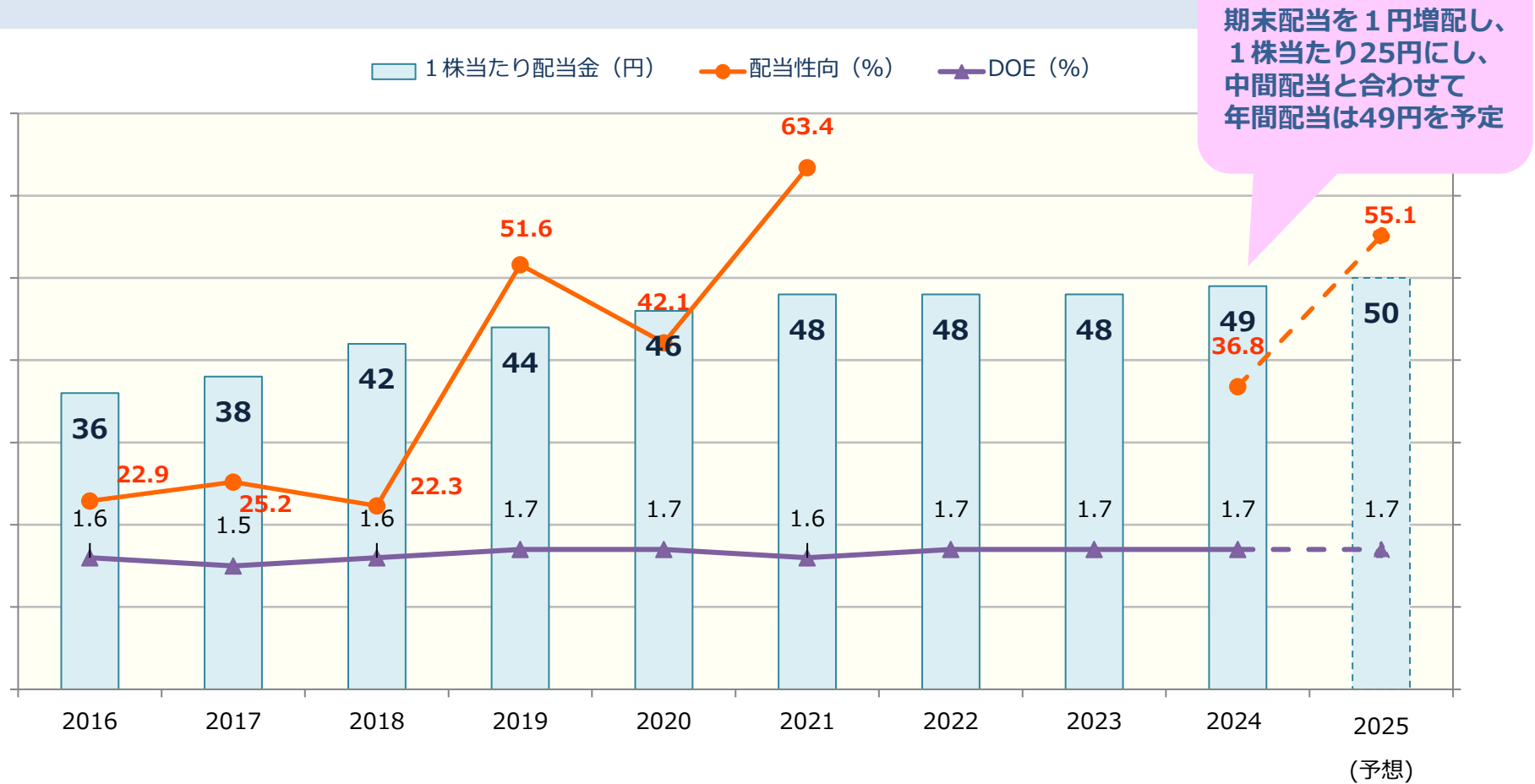
計



配当金の推移

基本方針

安定的かつ継続的な配当を維持しつつ、積極的な株主還元策に取り組む



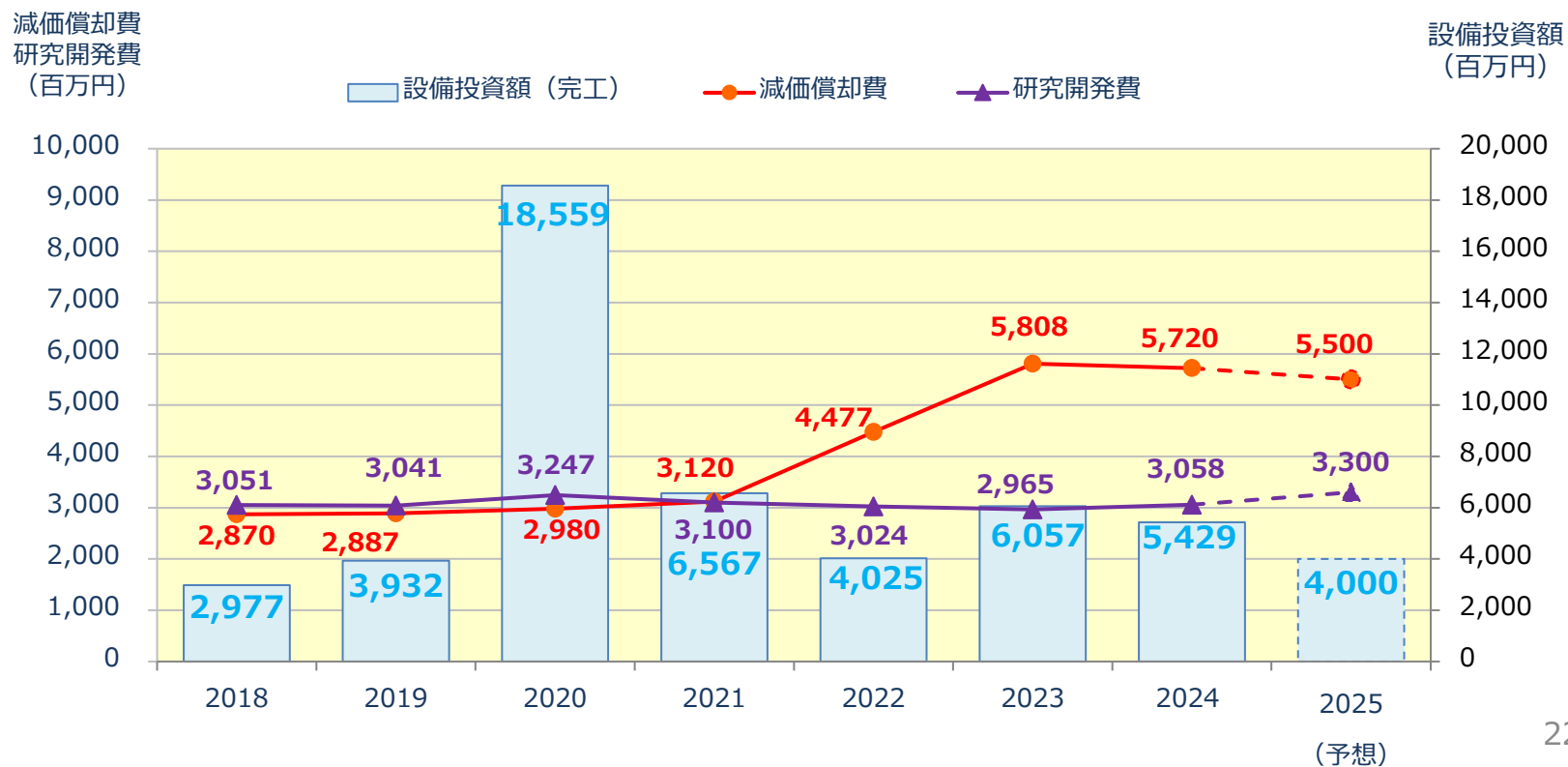
4次中計配当性向
30%を目途とする

5次中計配当性向
40%を目標とする

設備投資および研究開発費

2025年度見通し

- ・設備投資：2024年度までで投資が一段落し、定常投資が中心となり、約40億円となる見込み
- ・減価償却：千葉アルコン製造・富士工場の光硬化型樹脂プラント・水島工場のファインケミカルプラントの償却費計上予定のため、55億円となる見込み



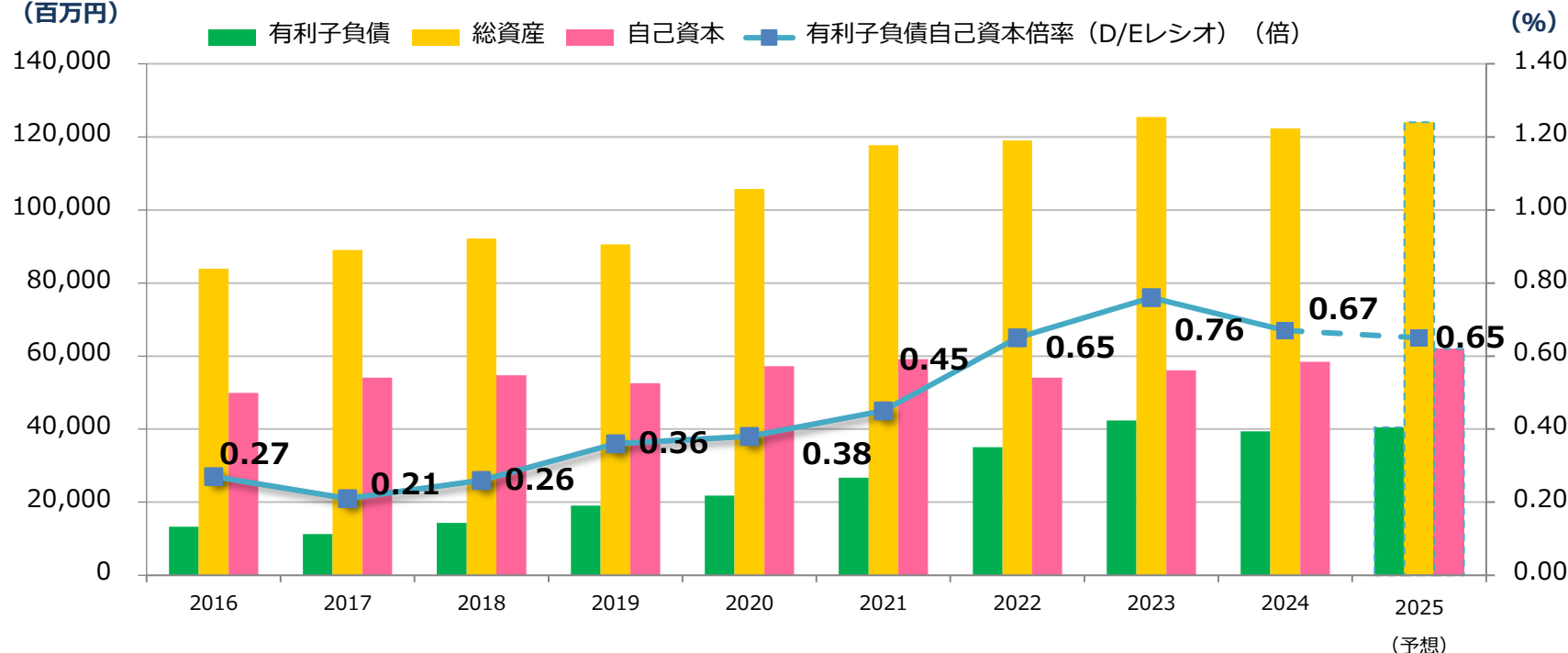
総資産・有利子負債推移

(百万円)

年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025 (予想)
有利子負債	13,300	11,269	14,349	19,045	21,789	26,680	35,052	42,388	39,381	40,500
総資産	83,898	89,019	92,174	90,600	105,757	117,739	119,035	125,418	122,297	124,000
自己資本	49,915	54,123	54,747	52,546	57,228	59,184	54,082	56,134	58,475	61,977
自己資本比率 (%)	59.5	60.8	59.4	58.0	54.1	50.3	45.4	44.8	47.8	50.0
有利子負債自己資本倍率 (D/Eレシオ) (倍)	0.27	0.21	0.26	0.36	0.38	0.45	0.65	0.76	0.67	0.65

* 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 2018年2月16日）を2018年度の期首から適用しており、2017年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

(百万円)



重点課題の進捗① 事業のSHIFT推進

■ プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント

「やめる/わたす/すてる」へのSHIFTもおこない、事業の新陳代謝を推進

2025年度

みつける

成長性

そだてる

売上高 10 億円
または事業利益 1 億円
を見込める事業

- ・熱硬化型樹脂
- ・低誘電ポリイミド樹脂
- ・電池用材料
- ・微細藻類 (+ガルデリア社)

のばす

経営資源の集中投入により成長が期待できる事業 (事業利益率7%以上)

- ・光硬化型樹脂
- ・製紙薬品 (海外)
- ・ファインケミカル製品 (半導体材料)
(かせぐ→のばす)
- ・精密研磨剤 (HDD)
(かせぐ→のばす)

やめる/わたす/ すてる

採算性が見込めない事業

- ・欧州での水素化石油樹脂製造終了
- ・ロジン誘導体等およびサイズ剤事業
の生産拠点統廃合完了

かせぐ

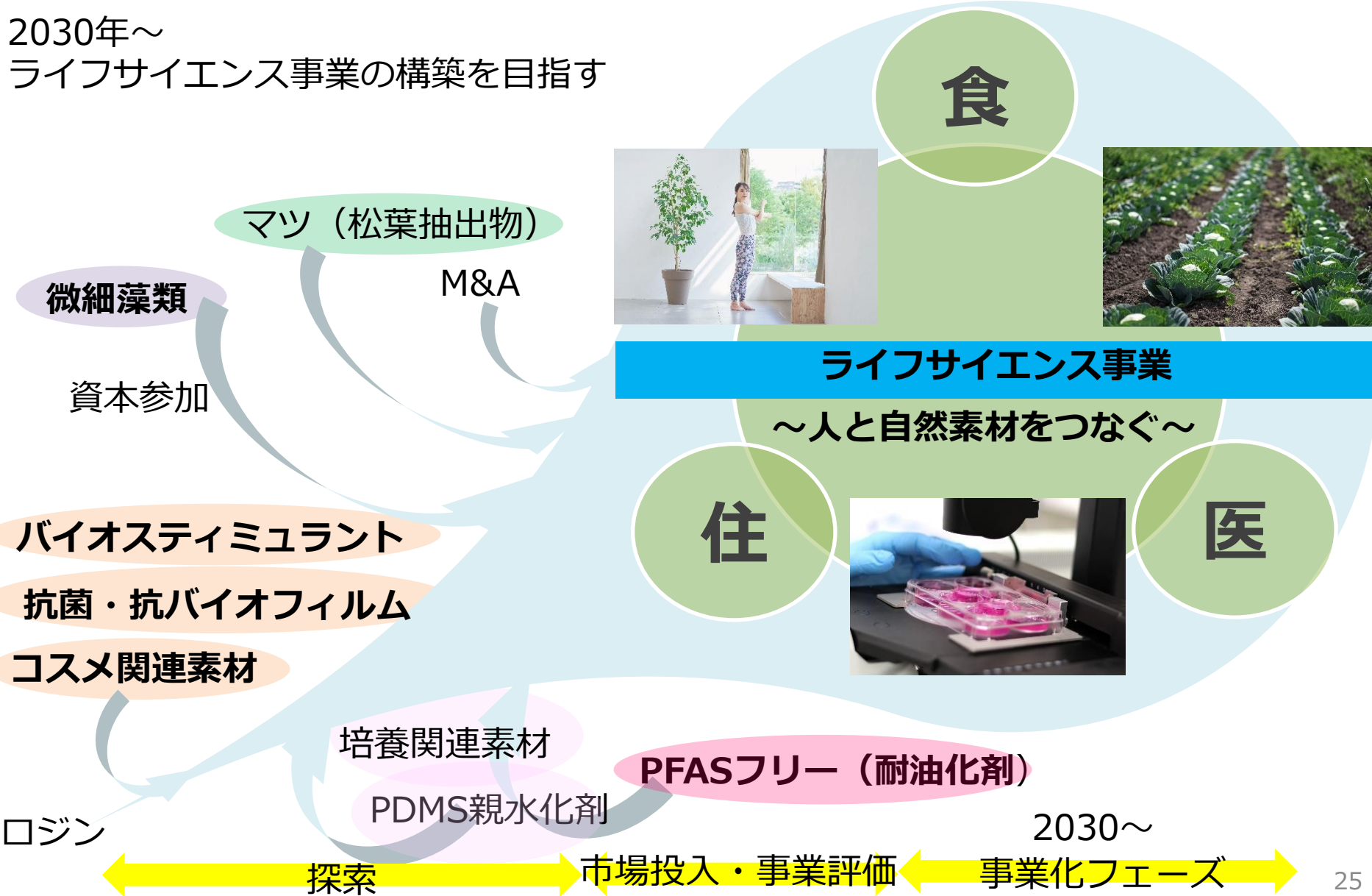
長期的に利益を生み出す事業
(事業利益黒字。利益率5%目処)

- ・印刷インキ用・塗料用樹脂
- ・製紙薬品 (国内)
- ・ロジン系粘着接着剤用樹脂
- ・水素化石油樹脂 (のばす→かせぐ)
- ・精密部品洗浄剤 (のばす→かせぐ)
- ・電子材料用配合製品 等

収益性

重点課題：ライフサイエンス事業に向けて

2030年～
ライフサイエンス事業の構築を目指す



重点課題の進捗② 新規事業関連（マツ）

マツ資源の機能の深堀

マツ由来バイオスティミュラント「EcoRosin」

収量改善・元気に

成分変化

特許出願済

JA晴れの国岡山矢掛アグリセンターと連携
果物・野菜など研究栽培を実施中

⇒農業資材としての販売を計画



無農薬栽培での比較
写真右：EcoRosin 使用

筑波大学発ベンチャー

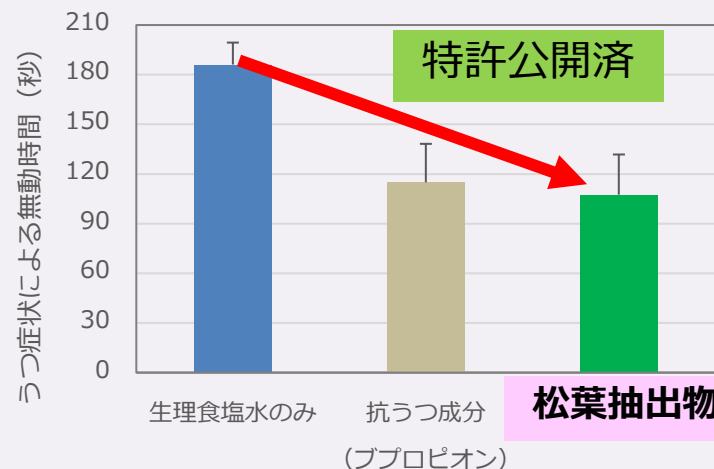
MED R&D株式会社との共同研究成果

<https://www.med-rnd.com/>

松葉由来の含有成分

活力

⇒BtoC向け商品化を目指す



重点課題の進捗③ 新規事業関連（微細藻類）

微細藻類事業への参入

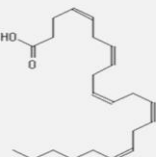
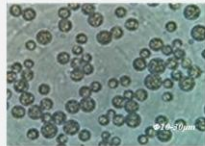
- ・ SoPros株式会社へ資本参加（2024年1月）
第三者割当増資引受とユニバーサル マテリアルズ インキュベーター株式会社（UMI）からの株式譲受により当社持株比率45.4%
- ・ 株式会社ガルデリアへ資本参加（2025年2月）
J-KISS 型新株予約権の取得（2億円）

大量・商業生産の早期実現と微細藻類を使用した商品／システムの開発によるライフサイエンス分野の市場開拓

オーランチオキトリウム

- ✓ 菌株
該社独自株 沖縄やんばる産
- ✓ 特徴
高度不飽和脂肪酸PUFAs
DHA、 ω -6DPAを高含有
閉鎖系タンク培養可

SoPros社
特許出願済み ω -6 DPA
DocosaPentaenoic Acid
 $C22:5\ n-6$ $C_{22}H_{34}O_2$



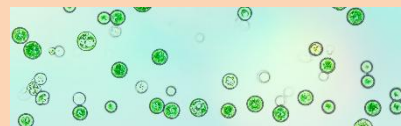
※DHA（ドコサヘキサエン酸）
 ω -6DPA（ドコサペンタエン酸）



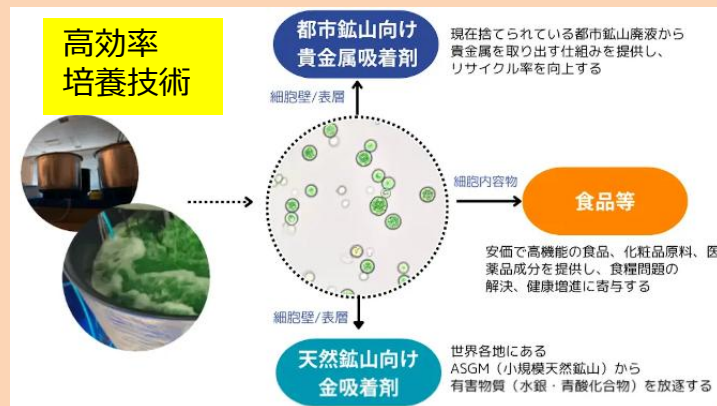
温活Foods
【MISO CUBE】を販売開始
(2025年2月)



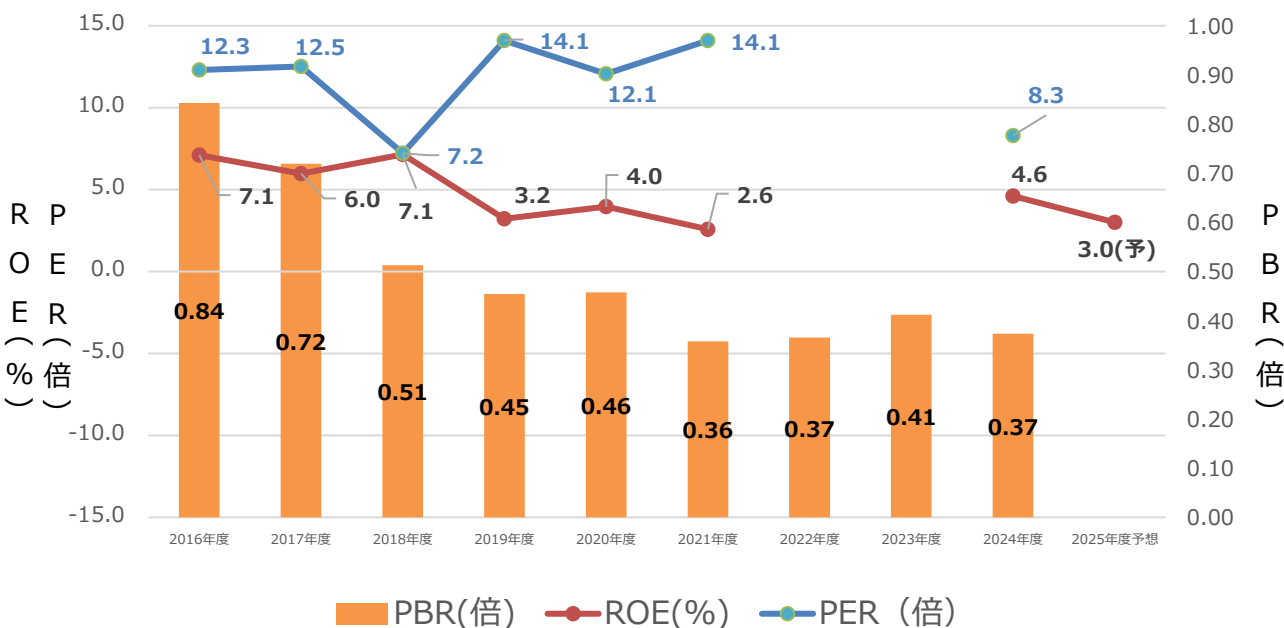
温泉に生息する微細藻類 *Galdieria*（ガルディエリア）



- ・ 圧倒的に効率の良い培養能力
- ・ 高温・高酸性といった極限環境下でも生育可能
- ・ 細胞表面には貴金属を選択的に吸着する能力



資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応



- 資本コスト (WACC) は4-5%程度
- 2016年0.8倍を上回る水準まで改善 (2017年一時的に1倍超)

↓ 2022年度および2023年度は純損失
現在はPBR0.5倍を下回る状態継続

資本効率の重要なKPIとして、
ROICも次期中計に取り込む予定

☑PBR改善に向けた取り組み

ROE

ROE > 株主資本コスト & ROIC > WACC

(事業の収益性の回復と安定性)

- 中期経営実行計画の各施策を推進・実現
- 事業ポートフォリオ改革の見直しを継続
- マイルストーン

ROE 7%・ROIC 5%達成 ⇒さらなる向上

PER

(企業価値の向上)

- 新規事業の創出による期待度アップ
- 中長期的な収益の成長性
- 積極的な情報開示

PBR =

×

3

サステイナビリティへの取り組み

サステナビリティへの取り組み

KIZUNA指標

■ 2050年CO₂排出量実質ゼロに向けた取り組み

2025年CO₂排出量：30%削減→**50%削減**（2015年比）

2030年CO₂排出量：**50%以上削減**（2015年比）＊

＊現時点では日本国内グループ（千葉アルコン製造㈱を含まず）を対象。対象範囲の拡大や削減率については次期中計で改めて検討予定

安全文化の醸成

- ✓コミュニケーション
- ✓人財育成
- ✓リスクアセスメント

荒川安全伝承館研修
（富士工場）



保安道場
（小名浜工場）

働きがいと生産性の向上

- ✓組織風土の醸成
（価値観の共有）
- ✓人事制度の設計の見直し

KIZUNA指標

個人と会社が
共に成長できる環境づくり

- ✓中核人財の育成
- ✓多様な専門性の結集

経営指標を支える人的資本投資

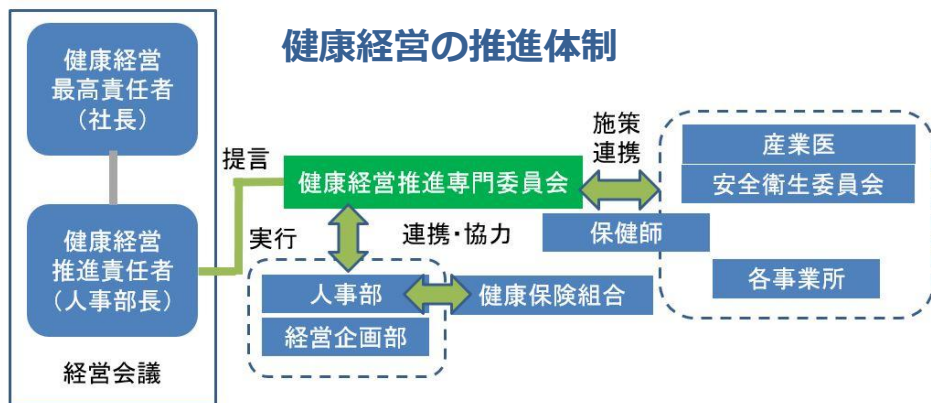


KIZUNAワークショップの様子

健康経営の取り組み

健康経営を通じて達成したいこと

- 従業員一人ひとりが元気に笑顔で出社できる会社づくりを行う。
- 従業員一人ひとりが仕事に集中し、能力を最大限に発揮する。
- 従業員だけでなく従業員の家族を含め、現役時はもとより退職後も健康で過ごしてもらう。



当社グループでも取得拡大中
(高圧化学工業、山口精研工業)

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
順位	1851～1900位 ／2869社	951～1000位 ／3169社	901～950位 ／3520社	551～600位 ／3869社

TOPICS

- 戦略マップ/KPIの策定
- 定期健康診断オプション検査の費用補助
- GLTD（団体長期障害所得補償保険）を導入
- 乳がんセミナー開催
- ラインケア研修・セルフケア研修の実施
- 社内報・社内イントラを使用した各事業所の取り組みの全社共有
- 各社員の趣味嗜好やライフプランに対応する福利厚生代行サービスの導入



次代へつなぐ取り組み

開発目標

4 質の高い教育を
みんなに



荒川化学が提供する価値

- ・「楽しく化学する」を基本とした体験学習の実施
- ・2023年度よりYUNGA Forests Challenge Badges プログラムを実施（上段左写真）
- ・文部科学省主催の「令和5年度青少年の体験活動推進企業表彰」で同プログラムが奨励賞を受賞（下段写真）
- ・こども参観日「KIZUNA（Kidsな）Day」を開催
- ・若手、中堅社員の海外研修制度
- ・奨学金制度

15 陸の豊かさも
守ろう



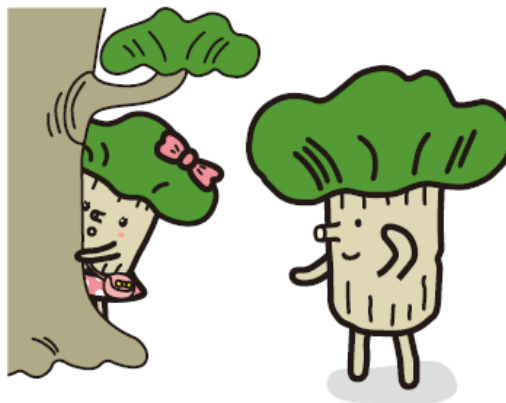
地域の松林復元に寄与する

「マツタロウの森」プロジェクト他の植林活動

見通しに関する注意事項

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来計画数値、施策の実現を確約したり、保証したりするものではありません。

荒川化学工業株式会社



參考資料

参考資料①

荒川化学の概要

- 会社概要 [（詳細はこちら）](#)
- 経営方針 [（詳細はこちら）](#)
- 創業からの歩み [（詳細はこちら）](#)
- 沿革 [（詳細はこちら）](#)
- 所在地 [（詳細はこちら）](#)

製品情報

- 低誘電ポリイミド樹脂
- 精密部品洗浄システム
- 電子材料用配合製品

取り組み事例

- 安全に対する取り組み
- 社外評価
- ESGの取り組み
- 新規事業への取り組み
- 人財育成・活躍への取り組み

参考資料②

第5次中期5カ年経営実行計画

- 第5次中期5カ年経営実行計画について
- 財務目標（連結）
- 財務目標（連結・セグメント別）
- 成長市場に向けた生産能力増強
- 第5次中計期間における当社のキャッシュ・アロケーション
- 5つのKIZUNA/KIZUNA指標
- KIZUNAポイントの進捗
- 経営理念とビジョン
- 2030年のありたい姿
- 荒川化学の未来像
- 優先的な重要課題と5つのKIZUNA
- 基本方針
- KIZUNA経営
- 事業ポートフォリオ改革
- セグメント組み換え
- SLBの発行・スキームイメージ・SPTs内容・進捗について
- サステナビリティ製品のSDGsへの貢献
- サステナビリティ製品一覧と指標への影響度

財務情報・その他

- キャッシュフロー推移
- 売上原価・販売管理費推移
- ロジン価格の推移
- 株価推移
- 株式情報

製品情報

低誘電ポリイミド樹脂 (PIAD)



: サステナビリティ製品

低誘電ポリイミド樹脂 (PIAD)

■ 処理データの高速化、大容量化（高周波化）に伴う電気信号の伝送損失を抑える

⇒ 次世代通信技術「5G」で使用されるミリ波に対応可能なフレキシブル基板向け
低誘電接着剤として注目される

⇒ 新たな用途開拓に向けた研究開発も強化

⇒ カーボンニュートラルトレンドを踏まえたバイオマス素材としてアピール

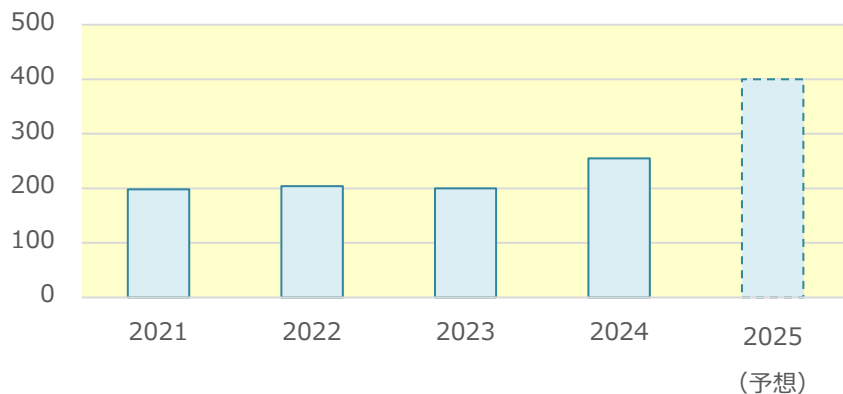


PIAD 液体外観



硬化後

売上高
(百万円)



■ 一般社団法人日本有機資源協会の
「バイオマスマーク認定」を取得
(当社製品における取得は初めて)



バイオマス
使用部位: ポリイミド樹脂
No.230037

■ 製品名: PIAD252



バイオマス
使用部位: ポリイミド樹脂
No.230036

■ 製品名: PIAD152H

精密部品洗浄システム



ファイン・エレクトロニクス



: サステナビリティ製品

洗浄実験室



■ 2019年6月

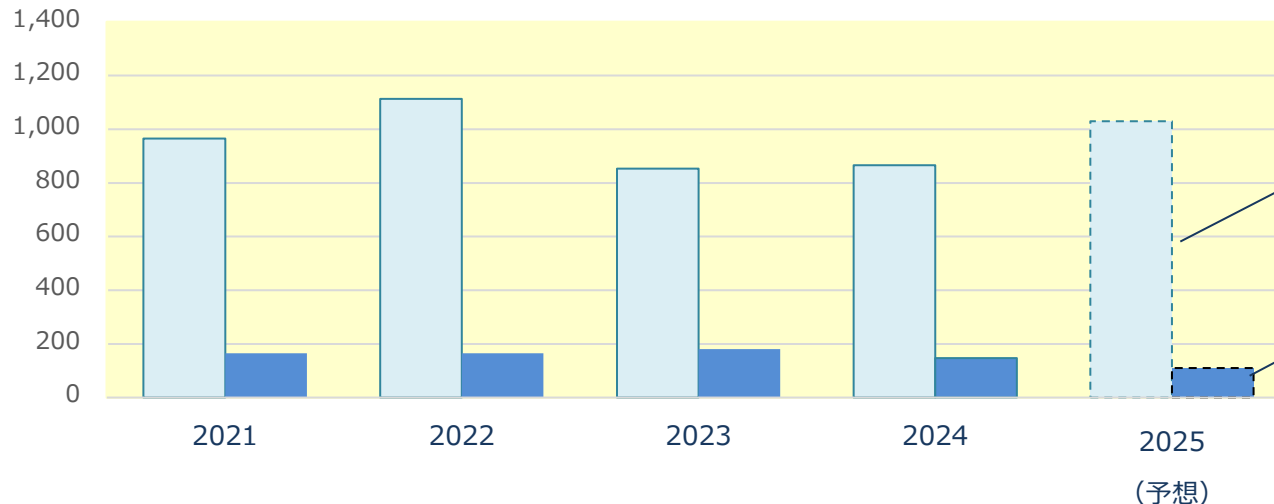
中国販売子会社に洗浄実験室を有する東莞分公司を開設

⇒精密部品洗浄事業の中国国内でのニーズに対し、
営業体制の強化および迅速なソリューション体制の提供

■ 廃水ゼロを目指した技術開発

■ 実装基板, FC, HDDハブ, カメラモジュール,
LED, WL-CSP, パワーデバイスなど

売上高
(百万円)



: サステナビリティ製品

洗浄剤 パインアルファ

洗浄装置

電子材料用配合製品

ペルノックス

■ エポキシ樹脂、シリコン樹脂などの樹脂配合技術とフィラーの配合・分散技術に強み

売上高
(百万円)

6,000

4,000

2,000

0

2021

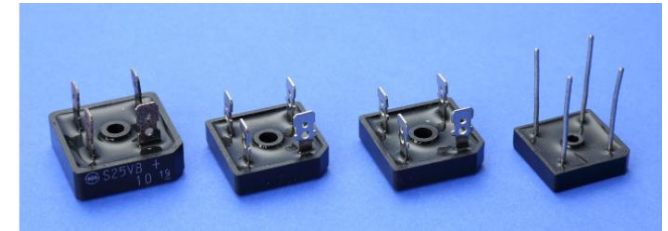
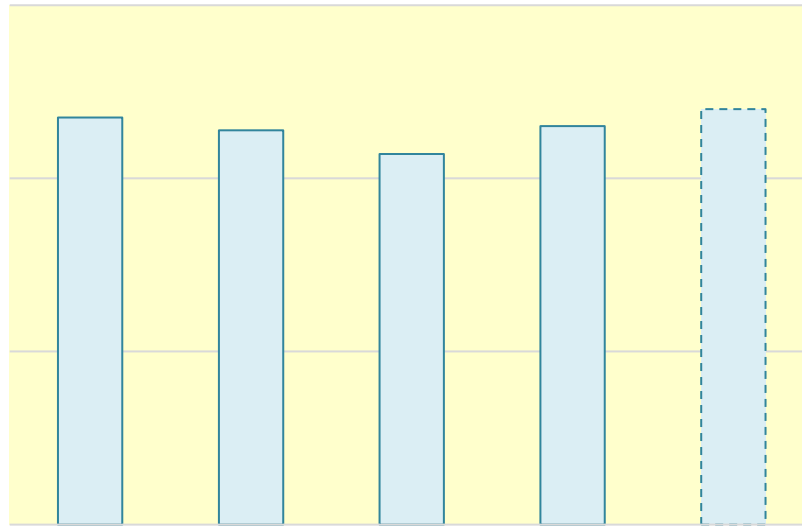
2022

2023

2024

2025

(予想)



エポキシ樹脂用途

- 半導体モジュール
- 車載電装品
- センサー

シフト位置
センサー

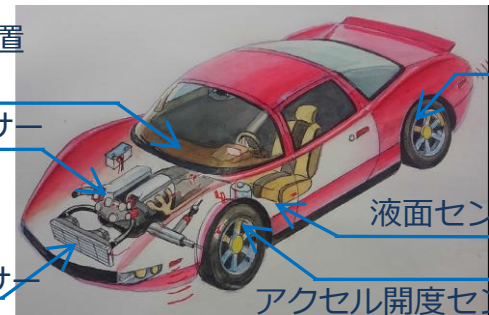
回転センサー

温度センサー

回転センサー

液面センサー

アクセル開度センサー



取り組み事例

安全に対する取り組み

開発目標

8 働きがいも
経済成長も



荒川化学が提供する価値



安全の思いを新たに「ご安全に！」
荒川化学グループの共通挨拶とする
「荒川あいさつ宣言」始動
(2024年12月1日～)

安全文化の醸成活動促進

- ・保安力向上センターによる保安力評価受審
(富士工場、大阪工場、小名浜工場)

荒川安全伝承館の設置

小名浜工場による保安道場活動

- ・安全体感装置を使用した体験型研修・保全
学習を実施



荒川化学工業株式会社
保安道場

左写真：研修の様子

社外評価

TOPIC

世界最大級かつ最も信頼されるサステナビリティ評価機関の一つである
EcoVadis社による評価にて「コミットメント・バッジ」を取得



JAPAN
CLIMATE
INITIATIVE

サプライチェーンの持続性確保

- ・カーボンニュートラル
- ・VOCの低減
- ・植林活動



持続的な価値創出を実現

炭素循環社会の実現

- ・自動車のEV化や軽量化
- ・スマート農業の促進

個々の能力を最大限発揮

- ・キャリア形成支援
- ・ワークライフバランスの最適化
- ・業務プロセス改革



ESGの取り組み

ESG（環境・社会・企業統治）経営を通し、SDGsにも関連付けながら、さらに社会に貢献する

環境保全や技術開発による取り組み

開発目標	荒川化学が提供する価値
 9 産業と技術革新の基盤をつくろう	暮らしの利便性、快適性を高める製品を提供し続けるための技術開発 * 海洋生分解性バイオマスプラスチック開発プラットフォームへ参画
 12 つくる責任 つかう責任	具体的な目標を掲げた製品ライフサイクルにおける化学物質の適正管理、産業廃棄物処理活動
 13 気候変動に具体的な対策を	具体的な目標数値を掲げた温室効果ガス削減活動 ・「OSAKAゼロカーボンファウンデーション」に参画 ・カーボンニュートラルLNGバイヤーズアライアンスに加盟



サプライチェーン全体での炭素循環、持続可能な調達を目指す

新規事業への取り組み

開発目標

9 産業と技術革新の
基盤をつくろう



17 パートナシップで
目標を達成しよう



荒川化学の取り組み

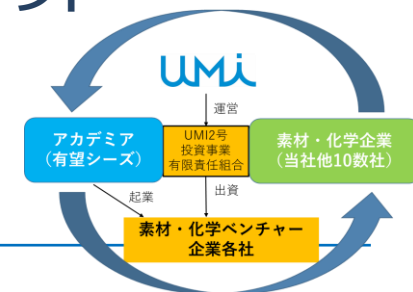
新規事業・新規テーマに関する

「社内テーマ提案・チャレンジャー育成」の運営チームを発足



ユニバーサル マテリアルズ インキュベーター社（UMI）が運営する
ベンチャーファンドであるUMI2号投資事業有限組合への投資

⇒素材・化学産業に特化した日本唯一のファンド



オープンイノベーションを活用した新規事業創出に取り組む

人財育成・活躍への取り組み

当社の人財はサステナビリティの取り組みを実施する全ての基盤
多様な人財の尊重・能力を十分に発揮する企業として課題に取り組む

取り組み例

■ 『仕事と介護の両立サポートBOOK』を作成



■ KIZUNAワークショップ 価値観・行動指針の共有・実施 (山口精研工業)



■ 人的資本の開示

第5次中期5カ年経営実行計画について

第5次中期5カ年経営実行計画について

2021～2025年度

V-ACTION *for sustainability*

人と事業の新陳代謝の深化、事業基盤の持続性を確保し、

持続可能な地球環境と社会を実現するための課題に取り組み、

付加価値・新規事業の創出、安全文化の醸成、および働きがいと生産性の向上を目指す

財務目標（連結）

（百万円）

	2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 実績	2024年度 実績	2025年度 予想	2025年度 中計目標
売上高	80,515	79,431	72,222	80,236	85,000	90,000
営業利益	3,304	△2,907	△2,617	1,057	2,800	3,500
経常利益	3,566	△2,687	△2,412	854	2,400	3,000
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,502	△4,941	△1,042	2,644	1,800	2,100
営業利益率（％）	4.1	△3.7	△3.6	1.3	3.3	3.9
EBITDA*（％）	6,500/8.1	1,569/2.0	3,190/4.4	6,778/8.4	8,300/9.8	8,700/9.7
ROE（％）	2.6	△8.7	△1.9	4.6	3.0	3.6
ROIC（％）	4.9	△3.1	△2.5	1.4	3.3	4.0
配当性向（％）	63.4	-	-	36.8	40%を目標とする	
1株あたりの配当額（円）	48	48	48	49	50	

* EBITDA：償却前営業利益＝営業利益＋減価償却費＋のれん償却額

（参考）投資額	2021年度	2022年度	2023年度 実績	2024年度 実績	2025年度 予想
設備投資額*1	6,567	4,025	6,057	5,429	約4,000
減価償却費	3,120	4,477	5,808	5,720	約5,500
うち千葉アルコン製 造(株)	-	1,043	2,315	1,954	約1,600
新規事業投資額*2	100	150	306	797	約1,200

*1中計目標(5年間累計)：約260億円

*22025年度までのライフサイエンス等の新規事業分野への設備投資・出資額（コーポレート）

財務目標（連結・セグメント別）

（百万円）

		2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 実績	2024年度 実績	2025年度 予想	2025年度 中計目標
機能性 コーティング	売上高	16,226	15,700	14,931	16,842	18,500	20,000
	セグメント利益	1,082	335	520	1,219	1,600	1,600
製紙・環境	売上高	18,652	20,991	21,120	22,041	22,400	23,500
	セグメント利益	969	310	1,339	1,849	1,600	1,600
粘接着・ バイオマス	売上高	32,530	29,977	25,135	27,800	29,000	30,500
	セグメント利益	206	△3,871	△4,048	△2,241	△700	400
ファイン・ エレクトロニクス	売上高	12,826	12,570	10,955	13,459	15,000	15,500
	セグメント利益	552	349	△393	847	1,000	700
その他	売上高	279	191	80	93	100	500
	セグメント利益	45	42	38	56	40	80
合計	売上高	80,515	79,431	72,222	80,236	85,000	90,000
	セグメント利益	2,855	△2,832	△2,542	1,732	3,540	4,380
	コーポレート 研究開発費	△437	△406	△408	△384	△490	△750
	全社費用 配賦差額等	886	331	333	△291	△250	△130
	営業利益	3,304	△2,907	△2,617	1,057	2,800	3,500

成長市場に向けた生産能力増強

ファイン・エレクトロニクス事業

ファインケミカル製品

DX

半導体関連
先端材料

水島工場

【投資金額】約20億円

高压化学工業と水島の2拠点体制

水島：顧客認証取得と量産化に注力



サプライチェーン強靱化を目的とした国の補助金等に採択

成長市場での
さらなる拡大

2024年12月

完工

ファイン・エレクトロニクス事業

DX

精密研磨剤

HDD用

山口精研工業

【投資金額】約11億円

第2工場：量産化段階



第2工場 外観

2024年2月

完工

機能性コーティング事業

EV・5G

光硬化型樹脂

電子部品の工程部材
ディスプレイ用

富士工場

【投資金額】約20億円

大阪・小名浜・富士
との3拠点体制

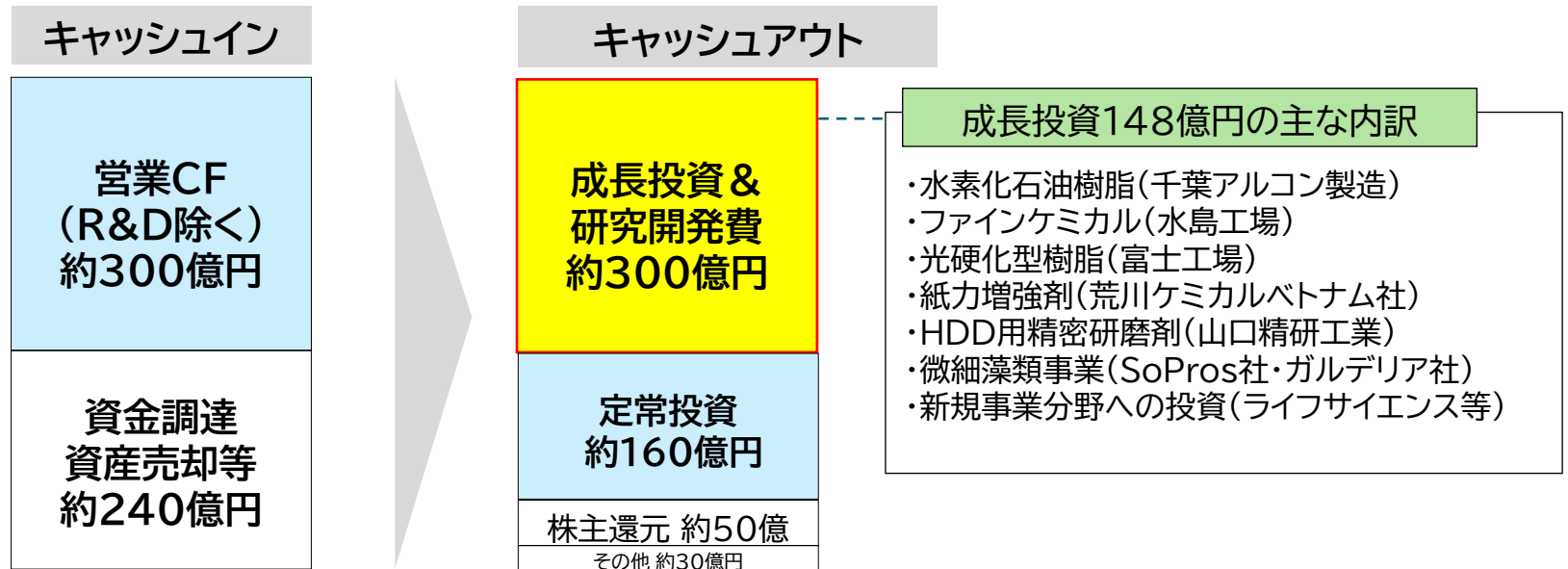


富士：顧客認証取得と下期量産化予定

2023年11月

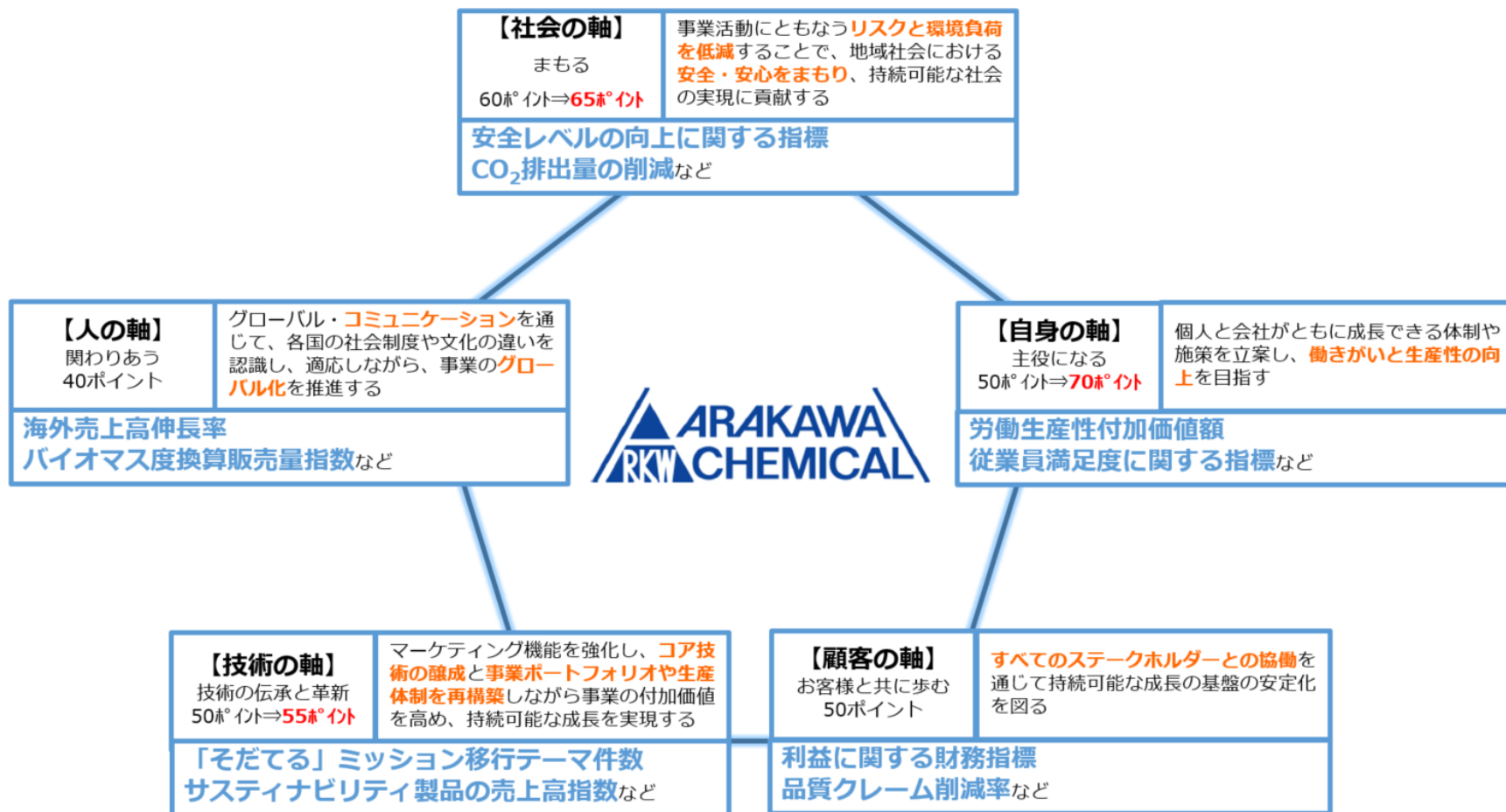
完工

第5次中計での投資総額見込み（5年累計）



5つのKIZUNA/KIZUNA指標

- 5つのKIZUNAとリンクした優先的な重要課題に対する指標を設定
- 達成度に応じてポイント付与（目標ポイントを目指し「ありたい姿」へ）



KIZUNAポイントの進捗

2024年度実績

新規事業創出「そだてる」へのシフトなどは課題あるも

サステナビリティ・リンク・ボンド（SLB）の両指標の目標達成は目前

★CO₂排出量の削減

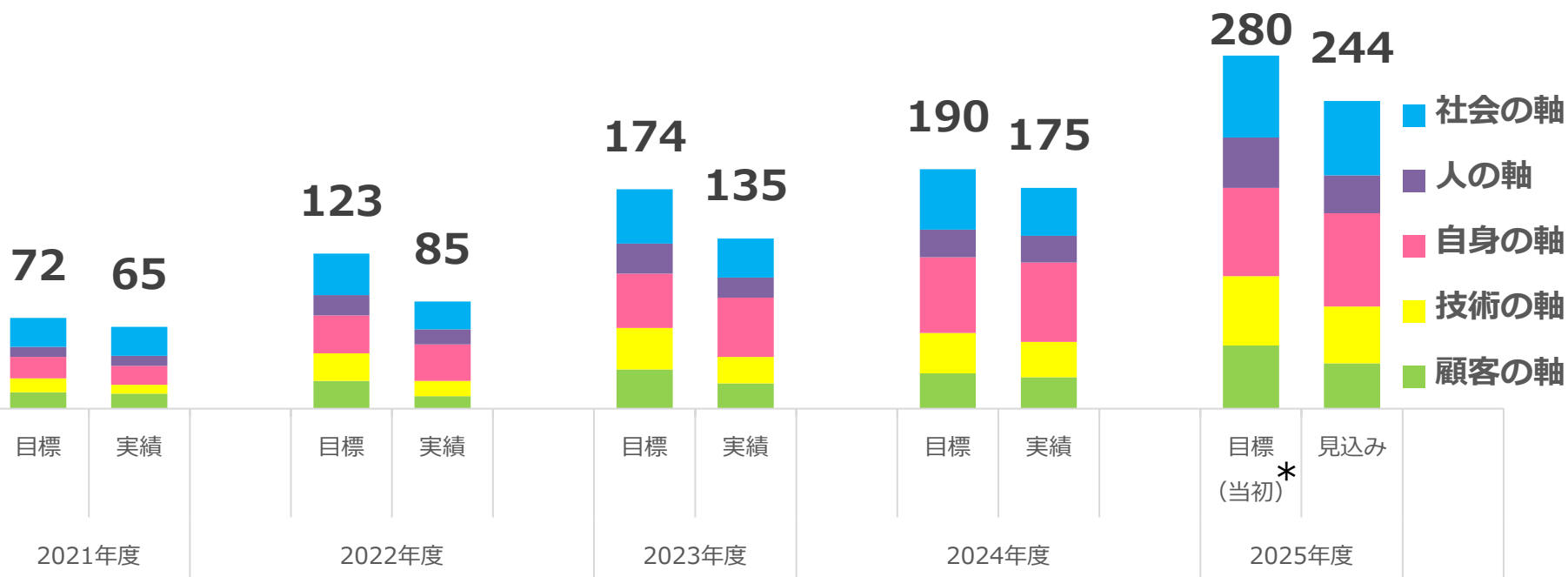
⇒2015年度比**55.2%削減**（SLB目標30%以上、中計目標50%以上**達成**）

★サステナビリティ製品の連結売上高指数

⇒2019年度比**23%アップ**（SLB目標25%アップ、中計目標30%以上）

ありたい姿に向けて

Well-being



*サステナビリティ・リンク・ボンドの発行に連動させた指標やプライム市場への移行にともなう追加指標もあり、KIZUNA指標のポイント配分を調整した

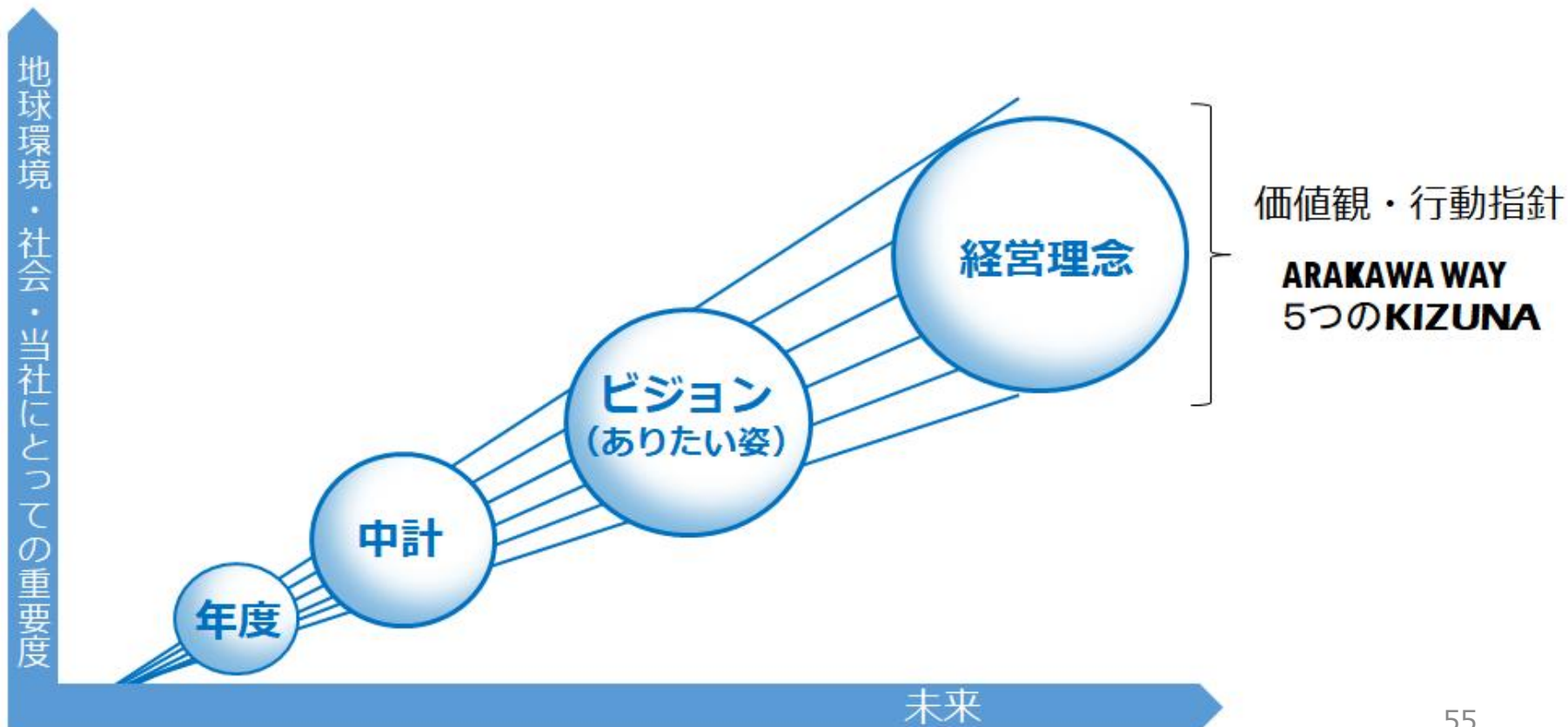
経営理念とビジョン

【経営理念】

個性を伸ばし 技術とサービスで みんなの夢を実現する

【ビジョン】

つなぐを化学する SPECIALITY CHEMICAL PARTNER

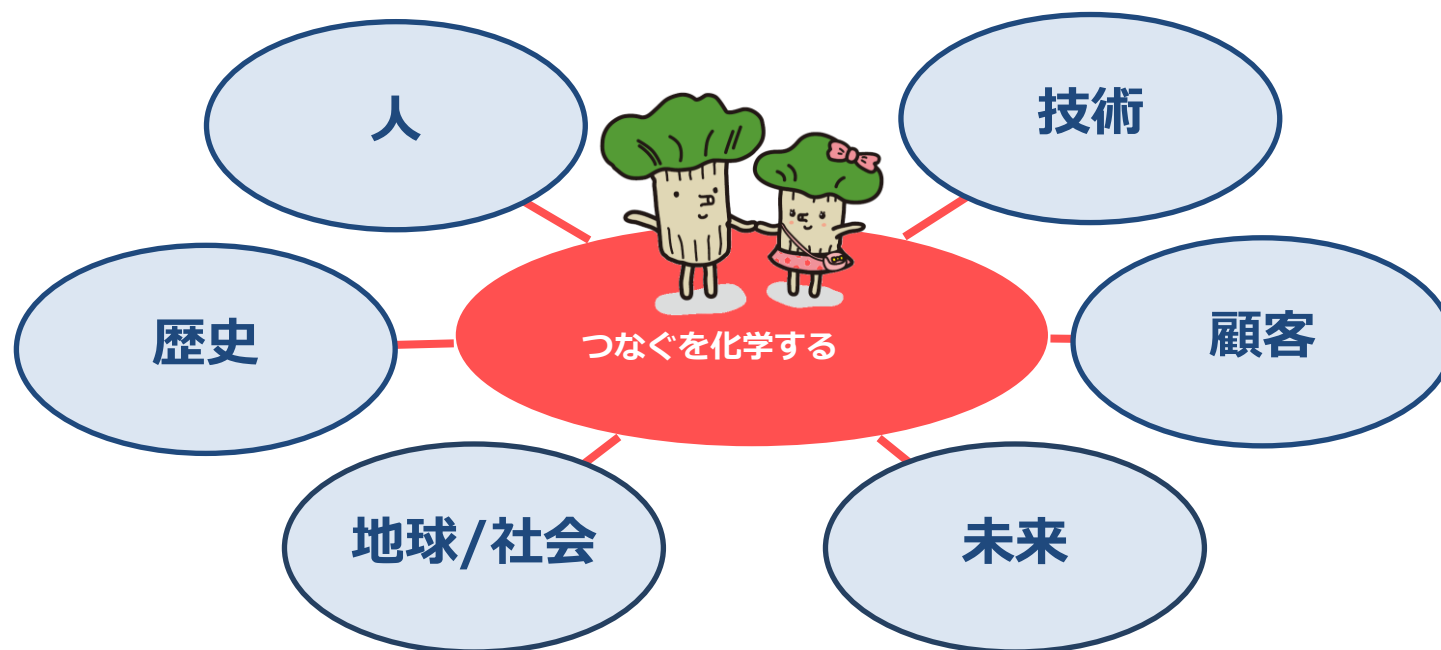


2030年のありたい姿

ロジンをはじめとする環境に配慮した素材を活かし、
「つなぐ」技術の深化と新たな付加価値の創造に挑戦し続けることで、
地球環境と社会の持続可能な未来に貢献する

つなぐを化学する

SPECIALITY CHEMICAL PARTNER



荒川化学の未来像（ビジョンの具現化）

- 地球環境と社会の持続的な未来に貢献するエコシステムにしっかり入り込む
- ライフサイエンス関連などの素材・REALとDIGITALを下支えするケミカルパートナーへ変革

持続可能な地球環境と社会の実現

REAL

ライフサイエンス

DIGITAL

「ありたい姿」の実現

優先的な重要課題（マテリアリティ）と5つのKIZUNA

■ 優先的な重要課題として12項目を選定し、5つのKIZUNA*との紐付け

*荒川化学グループの価値観・行動指針「ARAKAWA WAY 5つのKIZUNA」

ESG	優先的な重要課題	5つのKIZUNA
E S	安全文化の醸成	【社会の軸】 まもる
E	環境保全の強化	
G	ガバナンスの強化	
G	事業のグローバル化推進	【人の軸】 関わりあう
S	ダイバーシティ&インクルージョン推進	【自身の軸】 主役になる
S	働きがい改革	
S	NEXT事業の創出	【技術の軸】 技術の伝承と革新
E S	マーケティング力・研究開発力の強化	
G	生産体制再構築	
G	健全な財務基盤	【顧客の軸】 お客様と共に歩む
E S	持続可能な調達と供給	
G	品質マネジメントの強化	

ステークホルダーにとっての関心・影響

高い

荒川化学グループにとっての重要度

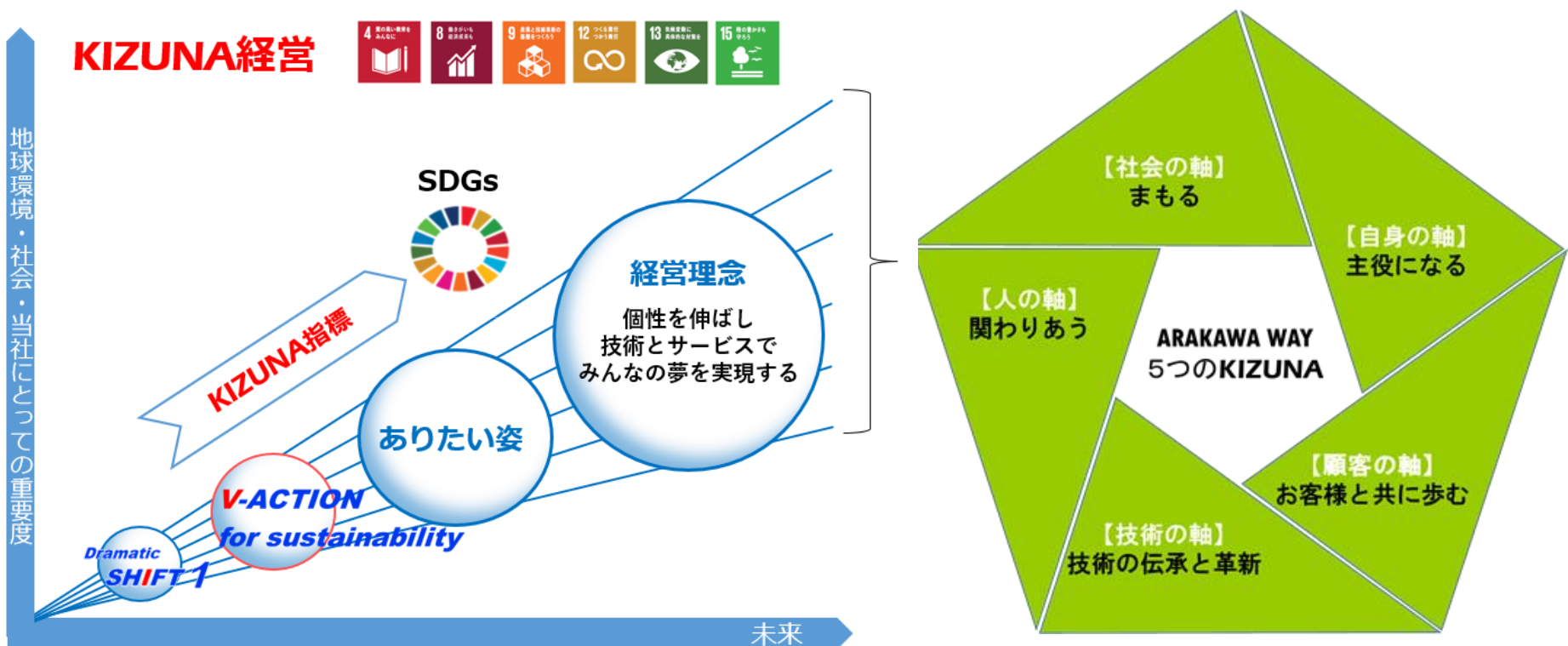
極めて
高い

*策定にあたってはSDG CompassやGRIスタンダードなどグローバルガイドラインを参照

基本方針

KIZUNA経営の推進とKIZUNA指標の達成

KIZUNA指標：5つのKIZUNA とリンクした優先的な重要課題から設定した指標
「ありたい姿」を実現するための指標



KIZUNA経営



① サステナビリティ委員会 設置

- ・ 重要課題や関連目標の設定や見直し、進捗状況のモニタリング・評価
- ・ 事業ポートフォリオの見直しや中長期的な経営計画、方向性を決定

② KIZUNA推進室 設置

- ・ 個人と会社がともに成長できる体制や施策を立案
- ・ 5つのKIZUNA共有活動や働きがい改革などを通じて、企業風土の改革を目指す

③ 事業戦略部 設置

- ・ グローバル事業戦略の提案・推進・評価・見直し
- ・ 事業の付加価値を高め、持続可能な成長の実現を目指す

事業ポートフォリオ改革①

■コア技術・素材

荒川化学グループが提供できる価値に対して、**長期的に経営資源を投入し、事業ポートフォリオの中核とする**

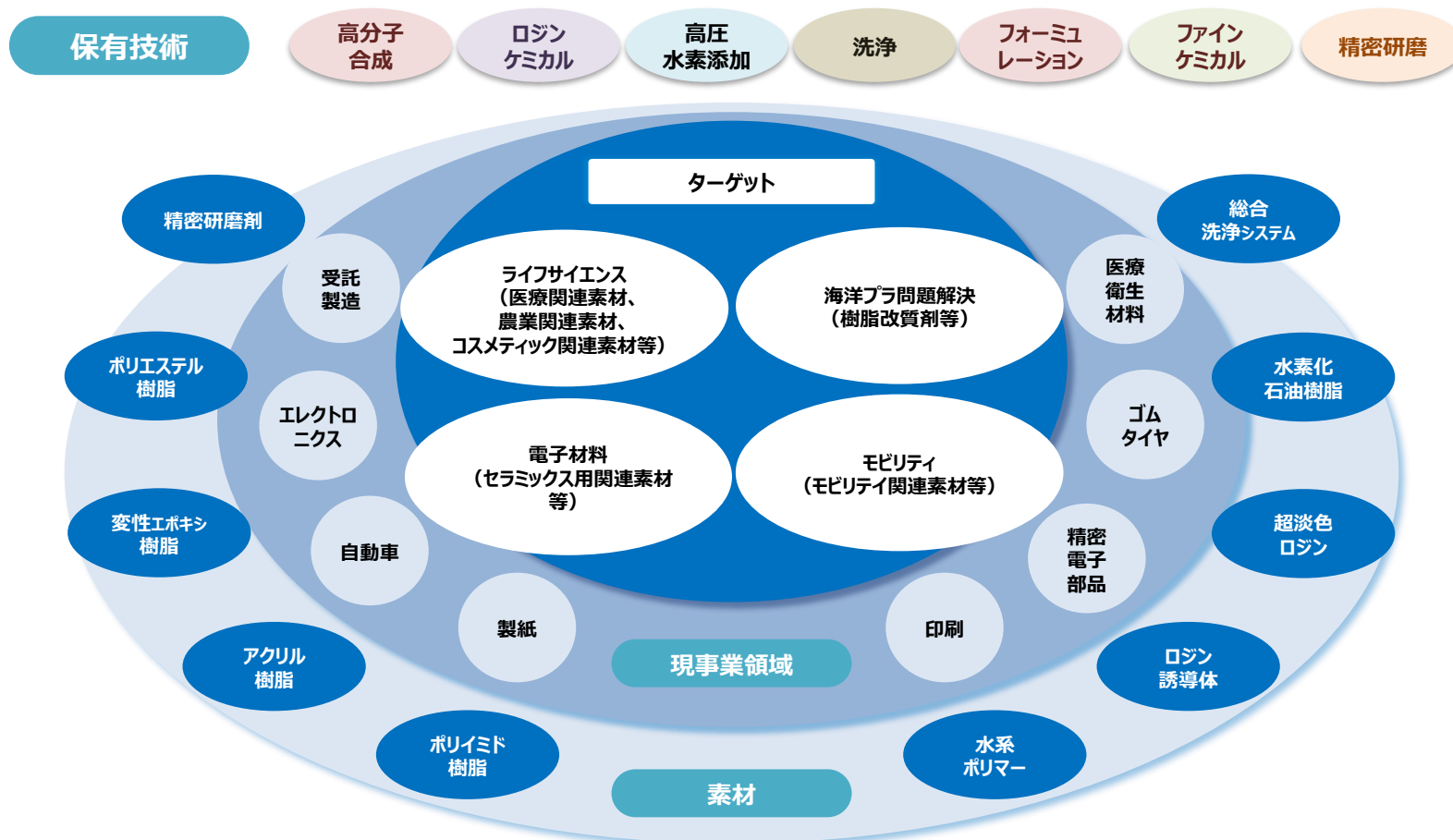
コア技術・素材	強み	方向性
水系ポリマー	重合技術	より一層環境に配慮した製品の開発 コア技術を活用した機能性材料としての新規用途展開
フォレストケミカル	原料調達 ロジン基礎技術 ロジン変性技術	持続可能な再生原料の有効活用 資源確保、高機能化 高付加価値用途への展開
水素添加	高圧水添技術・設備	グローバルでのブランド力の維持・強化 高圧水添技術の伝承と活用・展開 ブラッシュアップ
機能性材料*	スペシャリティ カスタマイズ	業界情報の集約 市場変化スピードへの対応、新規テーマ獲得 品質、生産設備の強化

* 機能性コーティング剤（光硬化型/熱硬化型樹脂）、低誘電ポリイミド樹脂、ファインケミカル、電子材料配合製品、精密研磨剤など

事業ポートフォリオ改革②

■ 現事業領域・素材と今後のターゲット分野

現事業領域に加え、**新たな事業領域での事業創出**に挑戦



事業ポートフォリオ改革③

- 新規事業創出の仕組みを確立し、ターゲット分野への参入に挑戦
- AI・MI活用による研究開発活動の効率化を推進

新規分野での実績化

ライフサイエンス
医療関連素材、農業関連素材
コスメティック関連素材など

海洋プラスチック
問題解決関連素材

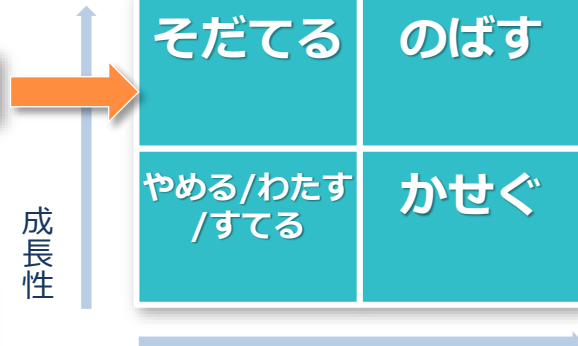
セラミックス用
関連素材

モビリティ
関連素材

など

- ・ マーケティング機能の強化
- ・ 社内テーマ提案・チャレンジャー育成の推進
- ・ 外部ソースの有効活用

みつける

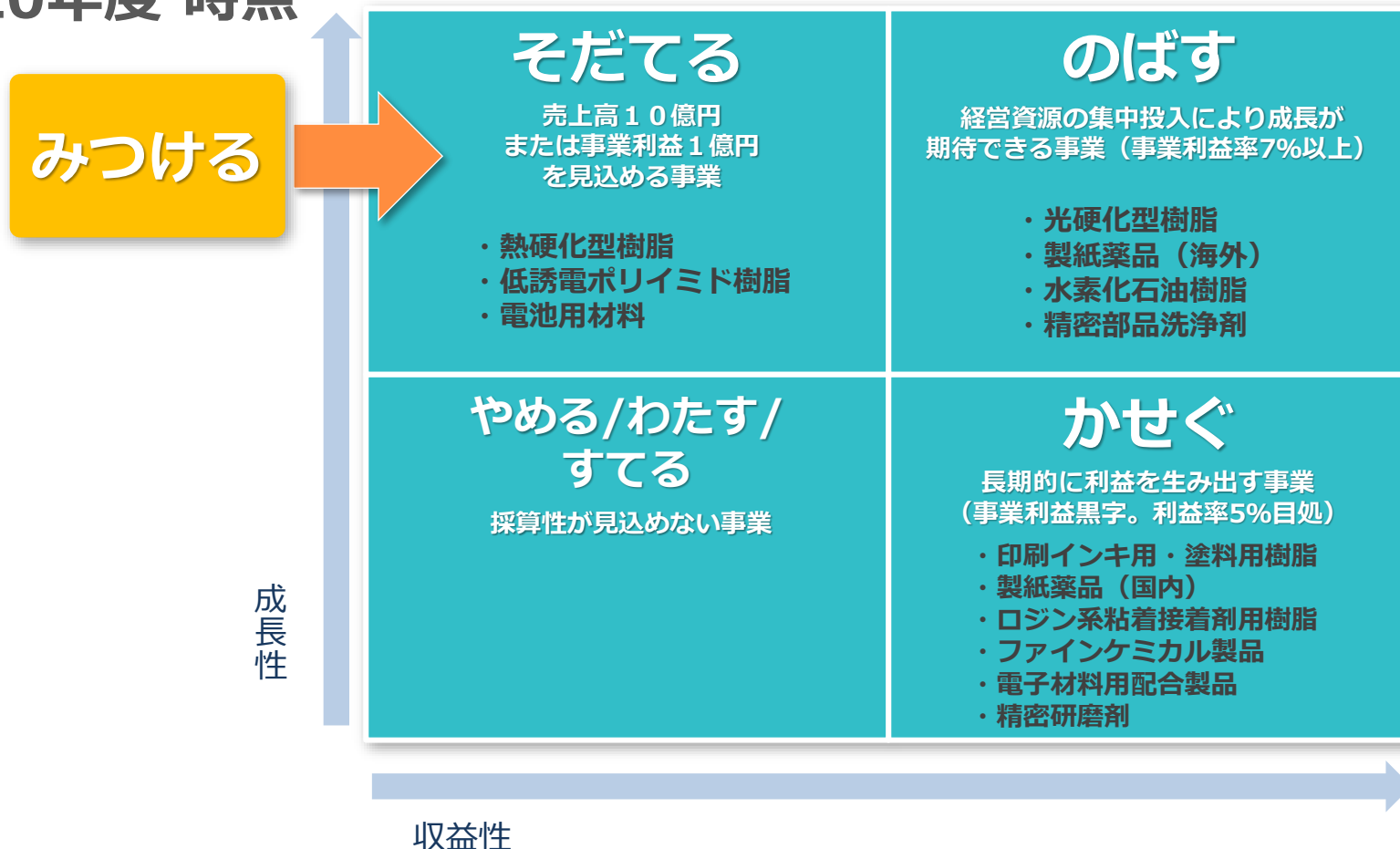


事業ポートフォリオ改革④

■プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント

「みつける」「そだてる」「のばす」ミッションへ積極的に経営資源を投入

2020年度 時点



セグメント組み換え（2021年度より）

旧セグメント

製紙薬品事業

サイズ剤

紙力増強剤

コーティング事業

機能性コーティング剤

印刷インキ・塗料用樹脂

合成ゴム重合用乳化剤

粘接着事業

水素化石油樹脂

粘着・接着剤用樹脂 など

シリコーン樹脂

機能性材料事業

精密部品洗浄剤 など

低誘電ポリイミド樹脂

ファインケミカル

電子材料用配合製品

精密研磨剤

印は、主に
ロジン系製品

印は、主に
超淡色ロジン
系製品

新セグメント

機能性コーティング事業

機能性コーティング剤

印刷インキ・塗料用樹脂

シリコーン樹脂

製紙・環境事業

紙力増強剤

サイズ剤

粘接着・バイオマス事業

水素化石油樹脂

粘着・接着剤用樹脂 など

合成ゴム重合用乳化剤

ファイン・エレクトロニクス事業

精密部品洗浄剤 など

低誘電ポリイミド樹脂

ファインケミカル

電子材料用配合製品

精密研磨剤

サステナビリティ・リンク・ボンド（SLB）の発行

日本の化学業界では初(世界の化学業界7例目、国内10例目)となるSLB発行



マツタロウ

社債の名称	荒川化学工業株式会社第5回無担保社債（社債間限定同順位特約付） （サステナビリティ・リンク・ボンド） （別称：荒川化学 マツタロウ サステナビリティ・リンク・ボンド）	
年限・発行額 （各社債の金額）	5年・50億円 （1億円）	
利率 （条件決定日）	年0.180% （2021年11月19日）	第5次中計のKIZUNA指標のうち サステナビリティ経営における リスクと機会 に対する重要な指標
取得格付	A－（株式会社日本格付研究所）	
引受会社	みずほ証券株式会社（事務主幹事、Structuring Agent）、野村証券株式会社、 三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	
SPTs	SPT1：2025年度のCO₂排出量を2015年度比30%削減(Scope1+2) SPT2：2025年度のサステナビリティ製品*の連結売上高指数を2019年度比25%以上アップ	
未達成の場合 （2025年度末時点）	・片方未達の場合、下記の寄付先へ、2026～2030年度の各年度で寄付を実施（社債発行額の0.30%） ①CO ₂ 吸収に効果のある松の植林や苗などを植える法人・団体等（SPT1のみ未達の場合） ②将来を担う学生や子どもたちへの教育の提供や関連する法人・団体等（SPT2のみ未達の場合） ・いずれも未達の場合 ①および②にそれぞれ社債発行額の0.15%相当額（合計で社債発行額の0.30%相当額）の寄付を実施 ・SPTs未達の場合の寄付の実施状況ならびにSPTsの進捗状況については、ウェブサイト上に公表	
SLBの 適合性について	株式会社日本格付研究所（JCR）より、ICMAが策定したサステナビリティ・リンク・ボンド原則 （SLBP）および環境省が策定したグリーンローンおよびサステナビリティ・リンク・ローンガイドラインに適合している旨の第三者意見書を取得	

SLBスキームイメージ

当社のマテリアリティに対応する取り組みとKIZUNA指標(KPI)からリスクと機会に対して重要な以下の2つを選定

KPI 1 CO₂排出量の削減(Scope 1、2)

KPI 2 サステナビリティ製品の連結売上高指数

サステナビリティ・リンク・ボンドにおける発行条件と連動するSPTs

SPT 1

2025年度のCO₂排出量を2015年度比30%削減

SPT 2

2025年度のサステナビリティ製品の連結売上高指数を2019年度比25%以上アップ

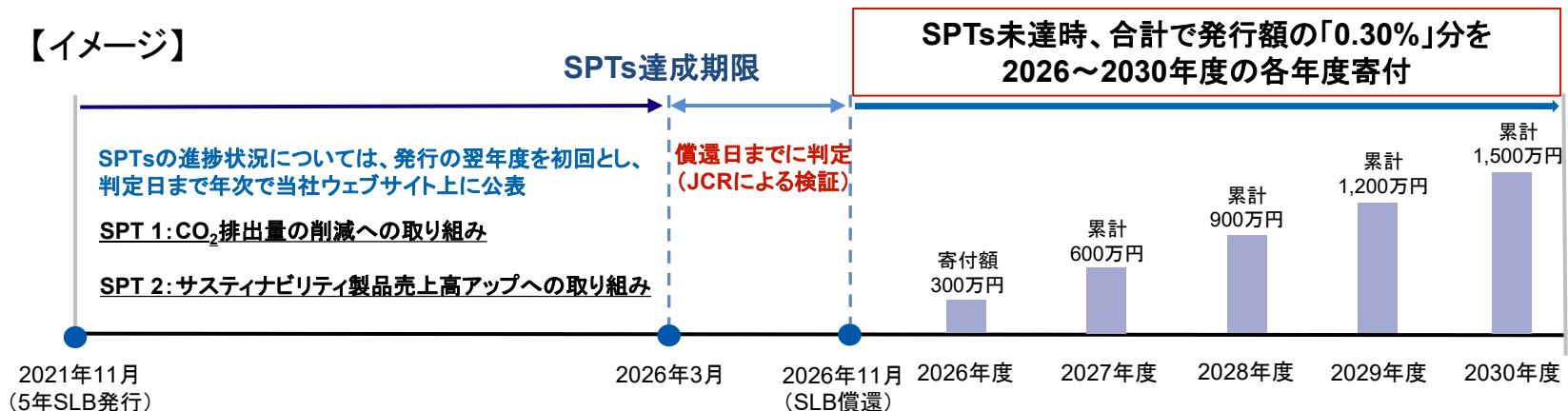
※KPI(キー・パフォーマンス・インディケーター)：非財務情報に関する重要情報評価指標

※SPTs(サステナビリティ・パフォーマンス・ターゲット)：サステナビリティ・リンク・ボンドの発行条件を決定する発行体の経営戦略に基づく目標

SPTs未達時

判定日において、SPTsの目標が達成できない場合、2026~2030年度の各年度寄付を実施。
合計で社債発行額の0.30%相当額の寄付をする。

【イメージ】

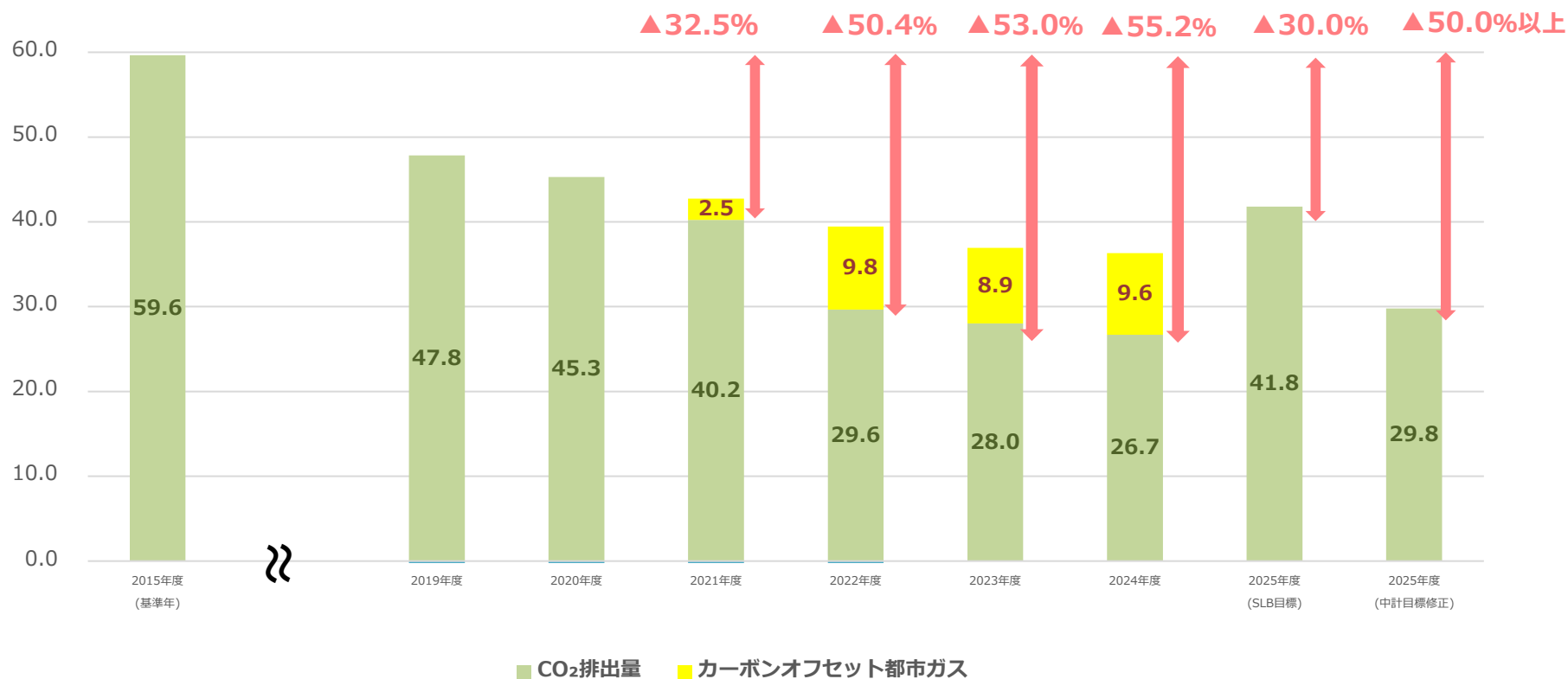


サステナビリティ・リンク・ボンド SPT 1の進捗について

2025年度のCO2排出量を2015年度比30%削減

CO2排出量の推移

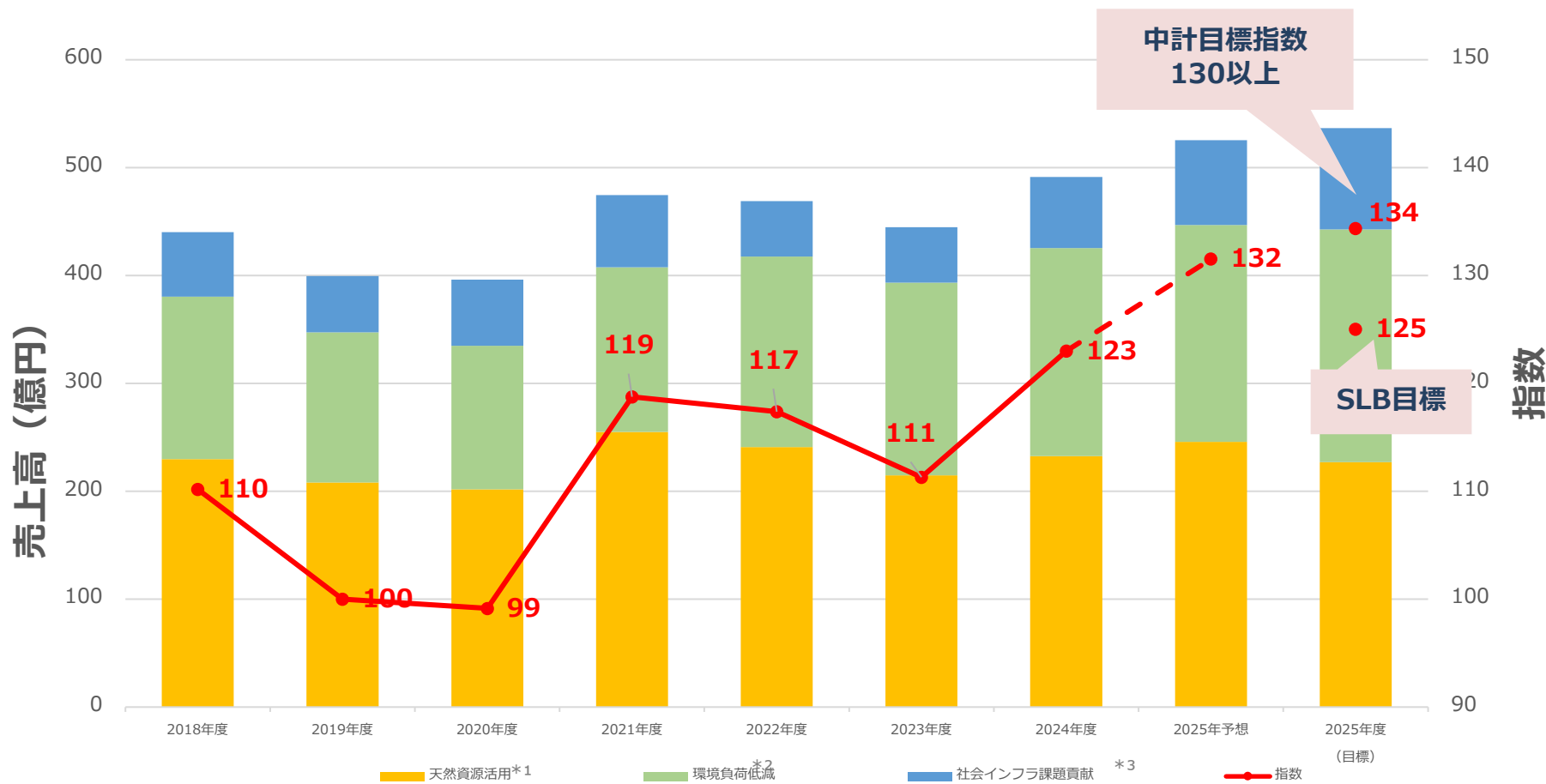
- SPT1の算定範囲として定めた単体および国内の主要なグループ会社（ペルノックス、高圧化学工業、山口精研工業）におけるCO₂排出量の合計推移
- 2021年から2025年の5年間で継続的な投資を予定
 - EMS(環境マネジメントシステム)、省エネ活動(LED照明や効率化など)
 - 大規模投資省エネ(太陽光発電設置など)
 - 再エネ電気やカーボンオフセット都市ガスの購入など



サステナビリティ・リンク・ボンド SPT2の進捗について

2025年度のサステナビリティ製品の連結売上高指数を2019年度比25%以上アップ

サステナビリティ製品の連結売上高/指数



*1 循環型素材であるロジン系樹脂の新たな用途開発により維持・拡大に努める

*2 カーボンニュートラルな社会の構築に資する製品への需要拡大を捕捉

*3 社会的課題解決 (EV車、Society 5.0 を見据えた通信インフラの拡大) に資する製品の需要拡大への対応

サステナビリティ製品のSDGsへの貢献

サステナビリティ製品と関連する主なSDGsおよび169のターゲット

SDGs目標	169のターゲットの主な項目
 8 働きがいも 経済成長も	8.8 移住労働者、特に女性の移住労働者や不安定な雇用状態にある労働者など、全ての労働者の権利を保護し、 <u>安全・安心な労働環境を促進する。</u>
 9 産業と技術革新の 基盤をつくろう	9.4 2030年までに、<u>資源利用効率の向上とクリーン技術及び環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大を通じたインフラ改良や産業改善により、持続可能性を向上させる。</u>全ての国々は各国の能力に応じた取組を行う。
 12 つくる責任 つかう責任	12.2 2030年までに<u>天然資源の持続可能な管理及び効率的な利用</u>を達成する。 12.4 2020年までに、合意された国際的な枠組みに従い、<u>製品ライフサイクルを通じ、環境上適正な化学物質や全ての廃棄物の管理を実現し、人の健康や環境への悪影響を最小化するため、化学物質や廃棄物の大気、水、土壌への放出を大幅に削減</u>する。 12.5 2030年までに、<u>廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減</u>する。
 13 気候変動に 具体的な対策を	13.3 <u>気候変動の緩和、適応、影響軽減</u>及び早期警戒に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善する。

メイン
の観点

サステナビリティ製品一覧と指標への影響度

カテゴリー	製品	影響度*4	野心度*5
社会インフラ課題貢献*1   	光硬化型樹脂	中	↗
	低誘電ポリイミド樹脂	小	↗
	電池用材料	小	↗
環境負荷低減*2   	紙力増強剤	大	↗
	湿潤紙力増強剤	小	↗
	水系インキ・塗料用樹脂	小	↗
	剥離紙用コーティング剤	小	↗
	精密部品洗浄剤	小	↗
天然資源活用*3  	ロジン誘導体	中	↗
	超淡色ロジン	中	↗
	水系粘着・接着剤用樹脂	中	↗
	サイズ剤	中	↘
	ロジン系印刷インキ用樹脂	中	↘
	合成ゴム重合用乳化剤	中	→

*1 5Gなど情報通信速度・量の質的改善、EV普及への貢献 *2 古紙リサイクルの普及促進などバリューチェーンを通じた環境配慮（労働環境改善・大気汚染の防止を含む）への貢献

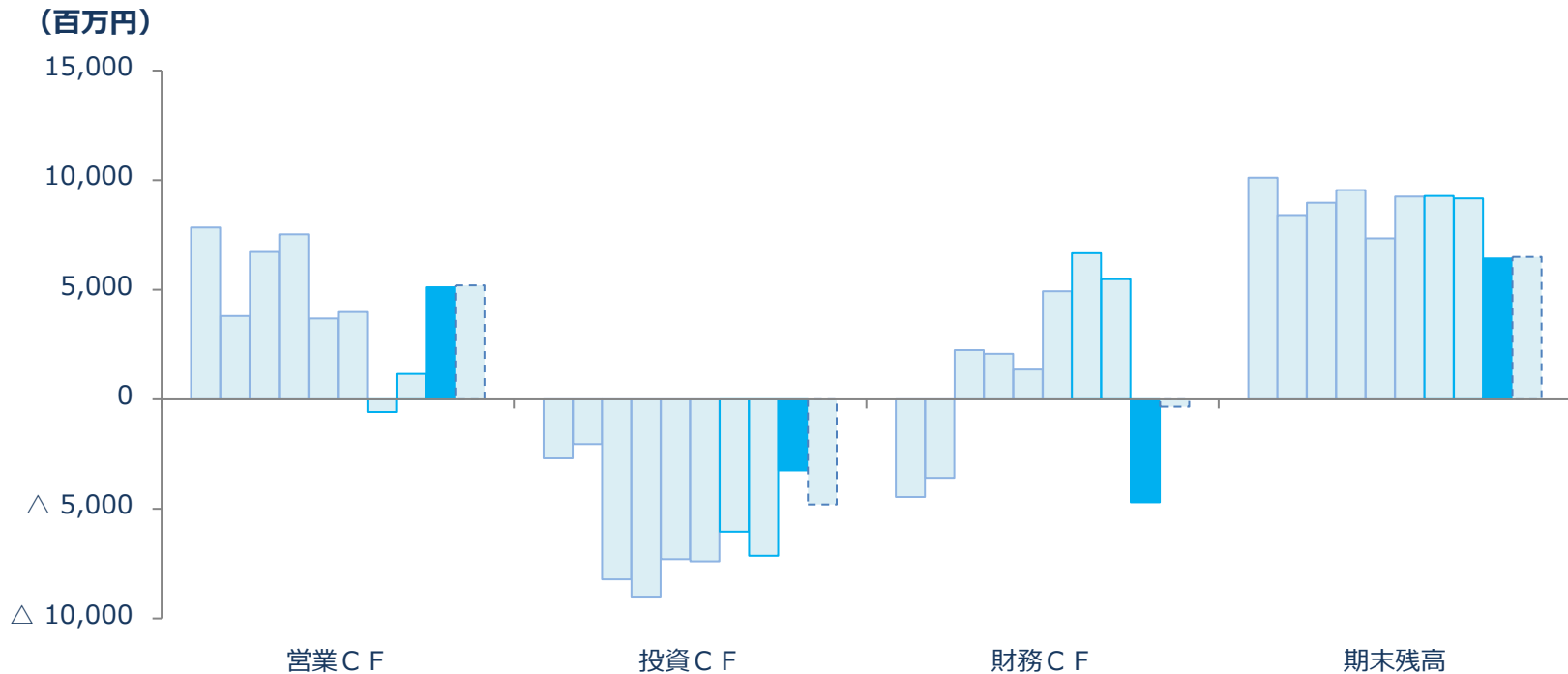
*3天然資源活用による炭素循環社会への貢献 *4 サステナビリティ製品の売上高に占める割合、*5 2019年度比2025年度売上高増への貢献度

財務情報・その他

キャッシュフロー推移

(百万円)

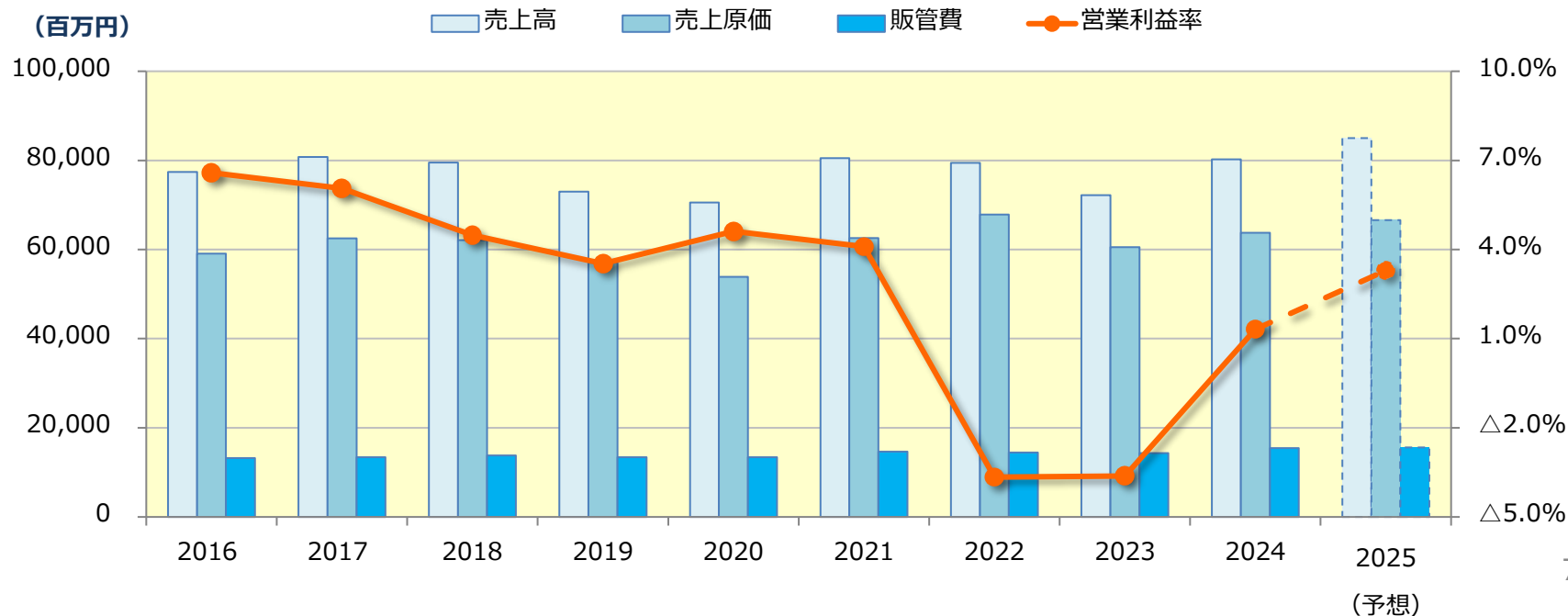
年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025 (予想)
営業C F	7,843	3,808	6,728	7,534	3,685	3,989	△ 575	1,157	5,119	5,200
投資C F	△ 2,698	△ 2,048	△ 8,208	△ 9,001	△ 7,298	△ 7,401	△ 6,046	△ 7,140	△ 3,243	△ 4,800
財務C F	△ 4,452	△ 3,586	2,243	2,084	1,354	4,927	6,666	5,484	△ 4,704	△ 330
期末残高	10,118	8,404	8,970	9,545	7,342	9,250	9,286	9,164	6,434	6,500



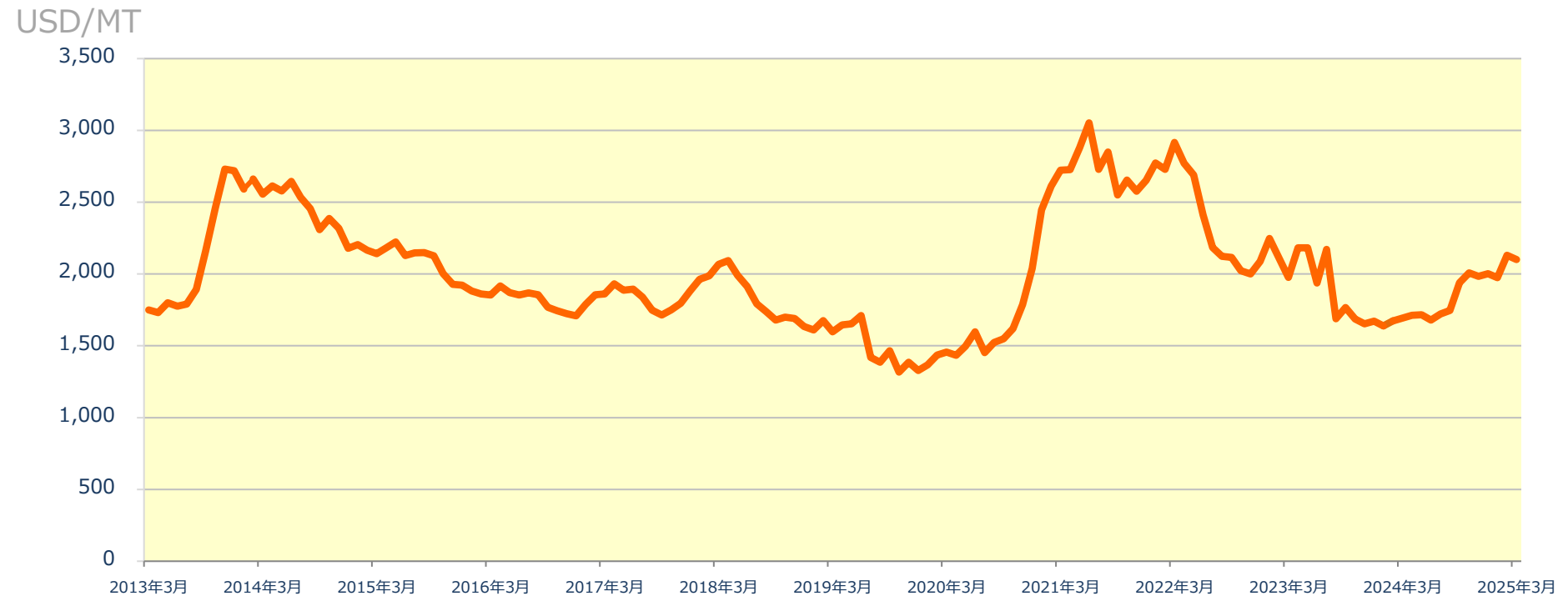
売上原価・販売管理費推移

(百万円)

年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025 (予想)
売上高	77,380	80,782	79,501	72,967	70,572	80,515	79,431	72,222	80,236	85,000
売上原価	59,111	62,478	62,123	57,014	53,884	62,544	67,859	60,540	63,743	66,600
販管費	13,173	13,410	13,813	13,378	13,431	14,667	14,479	14,299	15,436	15,600
営業利益	5,095	4,892	3,564	2,574	3,257	3,304	△ 2,907	△ 2,617	1,057	2,800
営業利益率	6.6%	6.1%	4.5%	3.5%	4.6%	4.1%	△3.7%	△3.6%	1.3%	3.3%
売上原価率	76.4%	77.3%	78.1%	78.1%	76.4%	77.7%	85.4%	83.8%	79.4%	78.4%
販管費率	17.0%	16.6%	17.4%	18.4%	19.0%	18.2%	18.2%	19.8%	19.2%	18.4%



ロジン価格の推移



株価推移



株式情報

証 券 コ ー ド	4968
決 算 期	3月
上 場 取 引 所	プライム市場
単 元 株	100 株
株 価	1,113 円 (2025年5月29日15 : 30時点)
最 低 所 要 金 額	111,300円
配 当 利 回 り	4.40%
P E R	8.35
P B R	0.38 倍
発 行 済 株 数	20,652,400 株 (2025年3月末時点)
長期発行体格付	BBB+ : 安定的 (J C R)





